

平成28年9月21日

平成27年度「国語に関する世論調査」の結果について

文化庁では、国語施策の参考とするため、平成7年度から毎年「国語に関する世論調査」を実施しています。このたび、平成27年度に実施した結果がまとまりましたので、発表します。

1 調査の概要

調査目的：日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し、国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起する。

調査対象：全国16歳以上の男女

調査時期：平成28年2月～3月

調査方法：個別面接調査

回収結果：調査対象総数 3,589人
有効回収数（率） 1,959人（54.6%）

2 調査項目

- ① 言葉への関心について
- ② 場面ごとの敬意表現について
- ③ 情報化の中でのコミュニケーションについて
- ④ 「ら抜き」、「さ入れ」、「やる／あげる」について
- ⑤ 言葉に対する感覚について
- ⑥ 慣用句等の意味・言い方について など

3 添付資料

- 平成27年度「国語に関する世論調査」の結果の概要

＜本件担当＞ 文化庁文化部国語課
国語課長 岸本 織江（内線2837）
国語調査官 武田 康宏（内線2841）
専門職 小沢 貴雄（内線2842）
電話：03-5253-4111（代表）
03-6734-2840（直通）

平成 27 年度「国語に関する世論調査」の結果の概要

調査目的・方法等

調査目的 文化庁が平成7年度から毎年実施しているもので、日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し、国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起する。

調査対象 全国 16 歳以上の男女

調査時期 平成 28 年2月～3月

調査方法 一般社団法人中央調査社に委託し個別面接調査を実施

調査結果 調査対象総数 3, 589 人
有効回答数(率) 1, 959 人(54. 6%)



備 考 ・百分比は各問いの回答者数を 100%として算出し、小数点第2位を四捨五入したため、百分比の合計が 100%にならない場合がある。また、百分比の差を示す「ポイント」については、小数点第1位を四捨五入して示した。

・選択肢「分からない」は、必要に応じて表示しているが、原則、省略している。

目 次

1 言葉への関心

- ◆ 毎日使っている日本語を大切にしているか、していないか……………<問 1>… 2
- ◆ 「美しい日本語」があると思うか、そうは思わないか……………<問 2・問 2 付>… 2
- ◆ どのような言葉に出会ったとき、心と心を結ぶ言葉の大切さを感じるか……………<問 3>… 3

2 場面ごとの敬意表現

- ◆ 敬語はどうあるべきだと思うか……………<問 4>… 4
- ◆ 中高生が担任の先生に対してどういった場面で敬語を使って話すべきか……………<問 5>… 4
- ◆ 会社に勤めている人が、上司に対してどういった場面で敬語を使って話すべきか……………<問 6>… 5
- ◆ 配達の人に対して、何という言葉を掛けることが多いか……………<問 7>… 5
- ◆ 仕事が終わったときに何という言葉を掛けることが一番多いか……………<問 8>… 6
- ◆ 同年輩の相手に対して「〇〇さんを知っているかどうか」をどのように尋ねるか……………<問 9>… 6
- ◆ 課長に部下が呼び掛けるとき、どの呼び方が一番望ましいと思うか……………<問 10>… 7
- ◆ 会社の受付の人が外部の人へ、自分の会社の〇〇課長のことを話す場合の一番良い言い方……………<問 11>… 7
- ◆ 学校の先生が保護者に対して、同僚の先生のことを話す場合の一番良い言い方……………<問 12>… 8
- ◆ 病院の医師が患者に対して、同僚の医師のことを話す場合の一番良い言い方……………<問 13>… 8

3 情報化の中でのコミュニケーション

- ◆ 毎日の生活に必要な情報を何から得ているか……………<問 14>… 9
- ◆ 言葉や言葉の使い方に大きな影響を与えるのは何だと思うか……………<問 15>… 9
- ◆ 次の各場面での携帯電話（スマートフォン含む）の使用についてどう感じるか……………<問 16>… 10
- ◆ 相手とどのような方法を用いてやり取りをするか……………<問 17>… 11
- ◆ インターネットを利用することがあるか……………<問 18>… 13
- ◆ どのようにインターネットを利用するか……………<問 18 付>… 14
- ◆ 情報機器の普及によって、言葉や言葉の使い方が影響を受けると思うか……………<問 19>… 14
- ◆ 次に挙げるような記号類や表記を用いた表現を見たことがあるか……………<問 20>… 15

4 「ら抜き」、「さ入れ」、「やる／あげる」

- ◆ どちらの言い方を普通使うか……………<問 21>… 16

5 言葉に対する感覚

- ◆ どちらの言い方を使うか……………<問 22>… 20
- ◆ どちらを主に使うか（日常の用語）……………<問 23>… 22
- ◆ どちらを主に使うか（文化・スポーツの用語）……………<問 24>… 22

6 慣用句等の意味・言い方

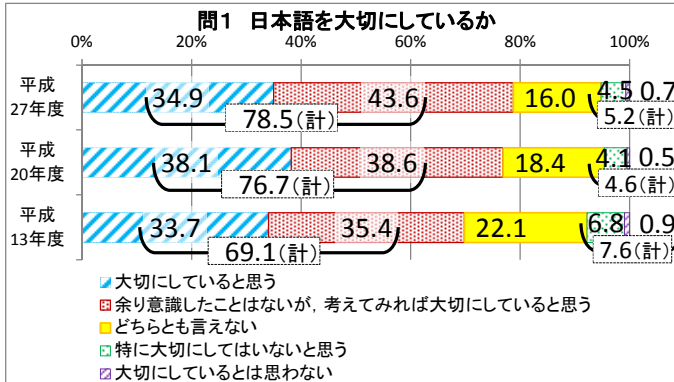
- ◆ どちらの意味だと思うか……………<問 25>… 25
- ◆ どちらの言い方を使うか……………<問 26>… 27

1 言葉への関心

* 報告書のページを表す。

毎日使っている日本語を大切にしているか、していないか＜問1＞（P. 3*）

— 「大切にしている（計）」と8割弱が回答し、経年比較すると増加傾向 —

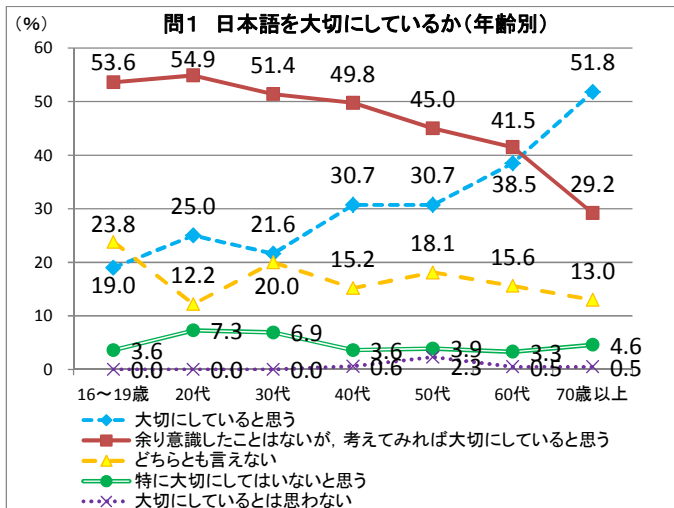


〔全体・過去の調査との比較〕

毎日使っている日本語を大切にしているか、それともそうはしていないかを尋ねた。

「大切にしていると思う」(34.9%)と「余り意識したことはないが、考えてみれば大切にしていると思う」(43.6%)を合わせた「大切にしている(計)」は78.5%となっている。

過去の調査結果(平成13, 20年度)と比較すると、「大切にしている(計)」は増加傾向にあるが、「大切にしていると思う」は、平成20年度調査から今回調査に掛けて3ポイント減少している。



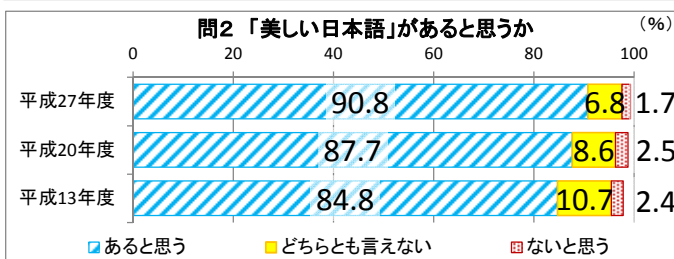
〔年齢別〕

年齢別に見ると、「大切にしていると思う」は、年代が高いほど高くなる傾向があり、70歳以上で51.8%となっている。

一方、全ての年代において、「特に大切にしていはいないと思う」と「大切にしているとは思わない」を合わせた「大切にしていはいない(計)」は、1割未満となっている。

「美しい日本語」があると思うか、そうは思わないか＜問2・問2付＞（P. 9）

— 「あると思う」は9割強 —

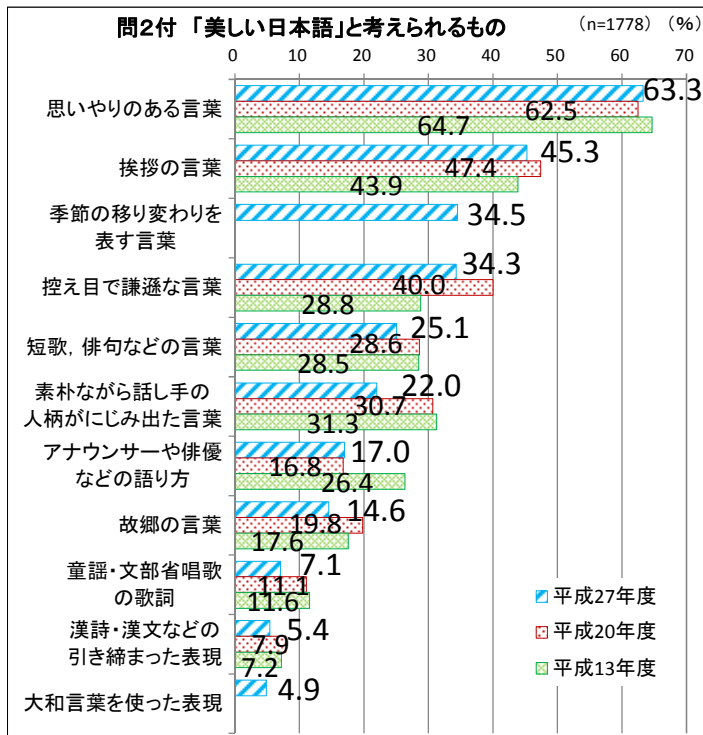


〔全体・過去の調査との比較〕

「美しい日本語」というものがあると思うか、それともそうは思わないかを尋ねた。

「あると思う」が90.8%となっている。

過去の調査結果(平成20, 27年度)と比較すると、「あると思う」は増加傾向にある。



〔全体・過去の調査との比較〕

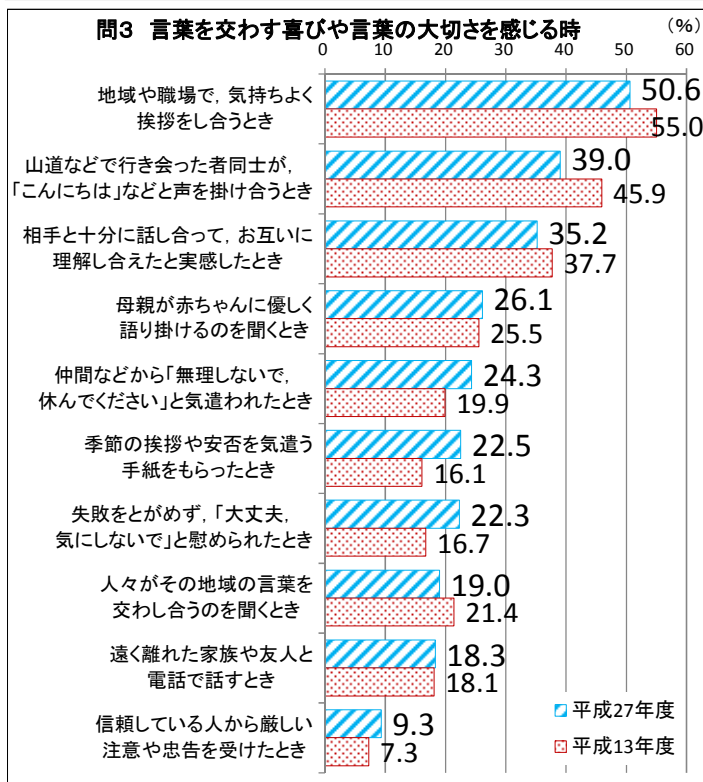
「美しい日本語」というものが「あると思う」と答えた人(全体の 90.8%)に「美しい日本語」とはどのような言葉かを尋ねた。(選択肢の中から三つまで回答。)

「思いやりのある言葉」が 63.3%と最も高く、次いで「挨拶の言葉」(45.3%)、「季節の移り変わりを表す言葉」(34.5%)、「控え目で謙遜な言葉」(34.3%)となっている。

過去の調査結果(平成 13, 20 年度)と比較すると、「思いやりのある言葉」が6割台前半で最も高く、次いで「挨拶の言葉」が4割台で続いているのは、今回調査でも同様となっている。また、「素朴ながら話し手の人柄がにじみ出た言葉」は減少傾向となっている。「故郷の言葉」は、平成 20 年度調査から今回調査に掛けて減少している。

どのような言葉に出会ったとき、心と心を結ぶ言葉の大切さを感じるか<問3> (P. 14)

—「地域や職場で、気持ちよく挨拶をし合うとき」が5割強—



〔全体・過去の調査との比較〕

どのような言葉に出会ったとき、人と人が言葉を交わす喜びや、心と心を結ぶ言葉の大切さを感じるかを尋ねた。(選択肢の中から三つまで回答。)

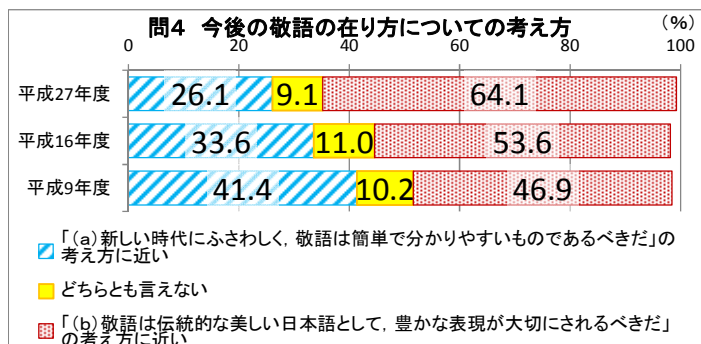
「地域や職場で、気持ちよく挨拶をし合うとき」が 50.6%と最も高く、次いで、「山道などで行き会った者同士が、「こんにちは」などと声を掛け合うとき」(39.0%)、「相手と十分に話し合って、お互いに理解し合えた実感したとき」(35.2%)となっている。

過去の調査結果(平成 13 年度)と比較すると、「地域や職場で、気持ちよく挨拶をし合うとき」、「山道などで行き会った者同士が、「こんにちは」などと声を掛け合うとき」は、4～7ポイント減少している。一方、「仲間などから「無理しないで、休んでください」と気遣われたとき」、「季節の挨拶や安否を気遣う手紙をもらったとき」、「失敗をとがめず、「大丈夫、気にしないで」と慰められたとき」は、4～6ポイント増加している。

2 場面ごとの敬意表現

敬語はどうあるべきだと思うか＜問4＞（P. 17）

—「敬語は伝統的な美しい日本語として、豊かな表現が大切にされるべきだ」が6割台半ばに増加—



〔全体・過去の調査との比較〕

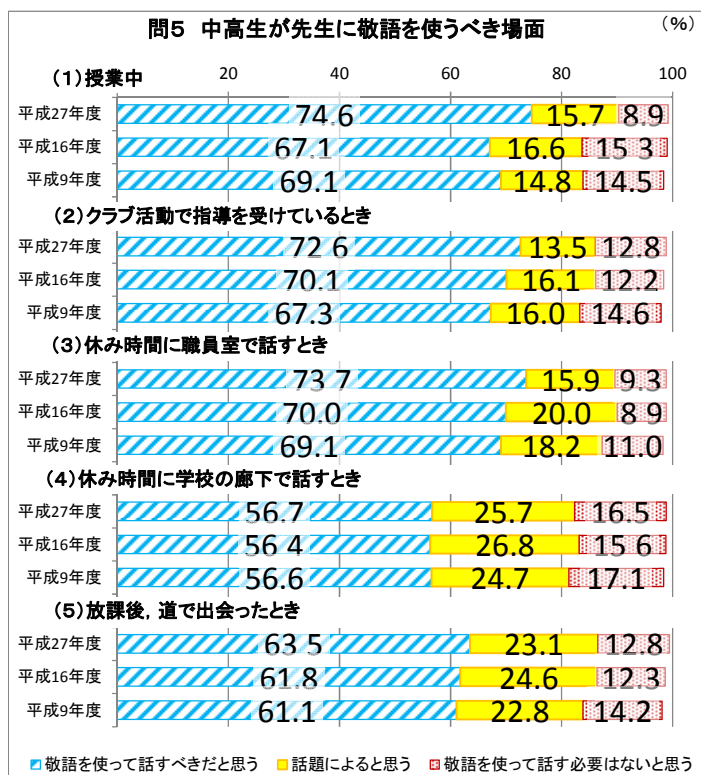
これからの時代の敬語の在り方について、「(a) 新しい時代にふさわしく、敬語は簡単で分かりやすいものであるべきだ」と「(b) 敬語は伝統的な美しい日本語として、豊かな表現が大切にされるべきだ」の二つの考え方のどちらに近いかを尋ねた。

「(b) 敬語は伝統的な美しい日本語として、豊かな表現が大切にされるべきだ」の考え方に近い」が64.1%となっている。

過去の調査結果(平成9, 16 年度)と比較すると、「(b) 敬語は伝統的な美しい日本語として、豊かな表現が大切にされるべきだ」の考え方に近い」は増加傾向にあり、「(a) 新しい時代にふさわしく、敬語は簡単で分かりやすいものであるべきだ」の考え方に近い」は減少傾向にある。

中高生が担任の先生に対してどういった場面で敬語を使って話すべきか＜問5＞（P. 19）

—「敬語を使って話すべきだと思う」が、どの場面においても増加傾向—



〔全体・過去の調査との比較〕

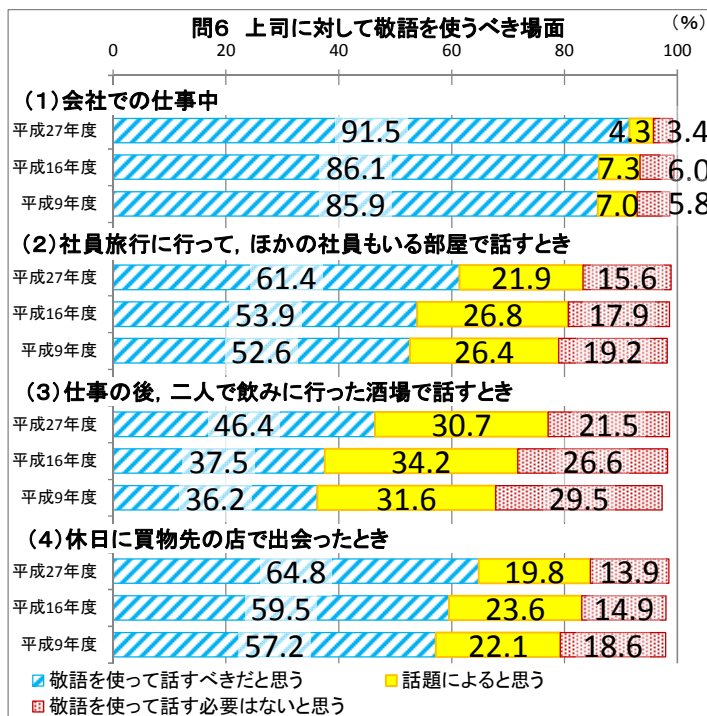
中学生や高校生が、担任の先生に対して、敬語を使って話すべきだと思うか、それとも、そうは思わないかを、五つの場면을挙げてそれぞれ尋ねた。

「敬語を使って話すべきだと思う」は、「(1) 授業中」が74.6%と最も高く、次いで、「(3) 休み時間に職員室で話すとき」(73.7%)、「(2) クラブ活動で指導を受けているとき」(72.6%)となっている。一方、「敬語を使って話す必要はないと思う」は、「(4) 休み時間に学校の廊下で話すとき」が16.5%と最も高く、次いで、「(2) クラブ活動で指導を受けているとき」「(5) 放課後、道で出会ったとき」(各12.8%)となっている。

過去の調査結果(平成9, 16 年度)と比較すると、「敬語を使って話すべきだと思う」は、「(1) 授業中」が平成16年度調査から今回調査で8ポイント増加するなど、全体として増加傾向にある。

会社に勤めている人が、上司に対してこういった場面で敬語を使って話すべきか＜問6＞（P.22）

—どの場面でも「敬語を使って話すべきだ」が増加—



〔全体・過去の調査との比較〕

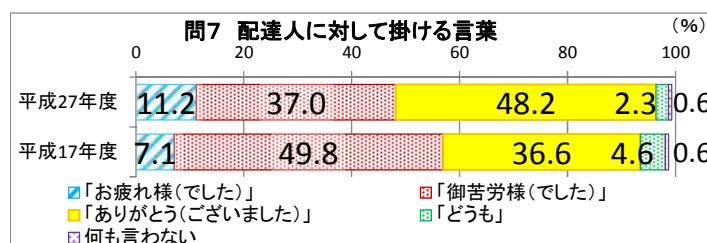
会社に勤めている人が、上司である課長に対して、敬語を使って話すべきだと思うか、それとも、そうは思わないかを、四つの場面を挙げてそれぞれ尋ねた。

「敬語を使って話すべきだと思う」は、「(1) 会社での工作中」が、91.5%と最も高く、次いで、「(4) 休日に買物先の店で出会ったとき」(64.8%)となっている。一方で、「(3) 仕事の後、二人で飲みに行った酒場で話すとき」は、46.4%と5割を下回っている。

過去の調査結果(平成9、16 年度)と比較すると、「敬語を使って話すべきだと思う」は、全ての場面において増加傾向にあり、「敬語を使って話す必要はないと思う」は、全ての場面において減少傾向にある。

配達の人に対して、何という言葉が掛けることが多いか＜問7＞（P.25）

—「ありがとう(ございました)」が約5割に、10年前は「御苦労様(でした)」が約5割—

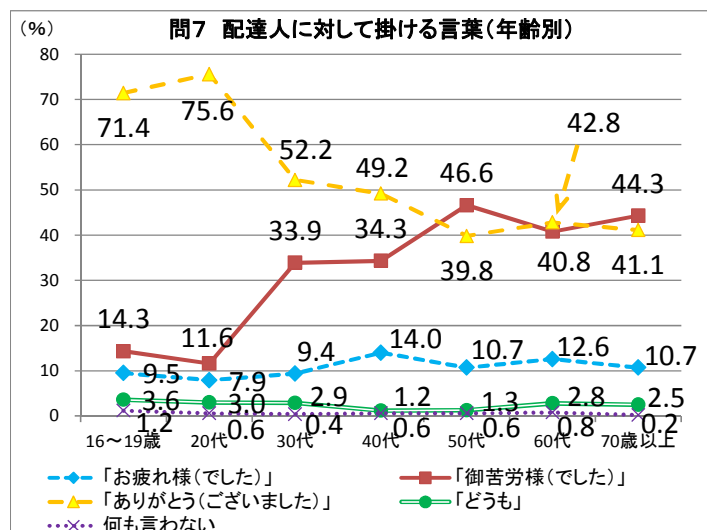


〔全体・過去の調査との比較〕

注文した品を届けに来てくれた配達の人に対して、配達が終わったときに何と言う言葉を掛けることが一番多いかを尋ねた。

「ありがとう(ございました)」が 48.2%と最も高く、次いで「御苦労様(でした)」(37.0%)となっている。

過去の調査結果(平成17 年度)と比較すると、「ありがとう(ございました)」は12ポイント増加しているが、「御苦労様(でした)」は13ポイント減少している。



〔年齢別〕

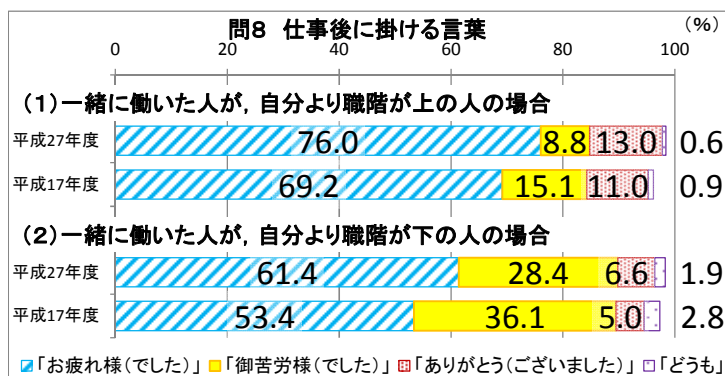
年齢別に見ると、「ありがとう(ございました)」は、20代以下で他の年代より高く7割台となっているが、50代以上で4割前後となっている。一方、「御苦労様(でした)」は、50代以上で他の年代より高く4割台となっているが、20代以下で1割台前半となっている。

「お疲れ様(でした)」は、全ての年代において1割弱から1割台前半となっている。

仕事が終わったときに何という言葉を掛けることが一番多いか＜問 8＞（P. 27）

—相手の職階が上の場合でも、下の場合でも、

「御苦労様(でした)」は減少し、「お疲れ様(でした)」は増加 —



〔全体・過去の調査との比較〕

自分が会社員であるとして、同じ会社で同じ仕事を一緒にした人たちに対して、その仕事が終わったときに何という言葉を掛けることが一番多いかを、自分より職階が上の人の場合と下の人の場合のそれぞれについて尋ねた。

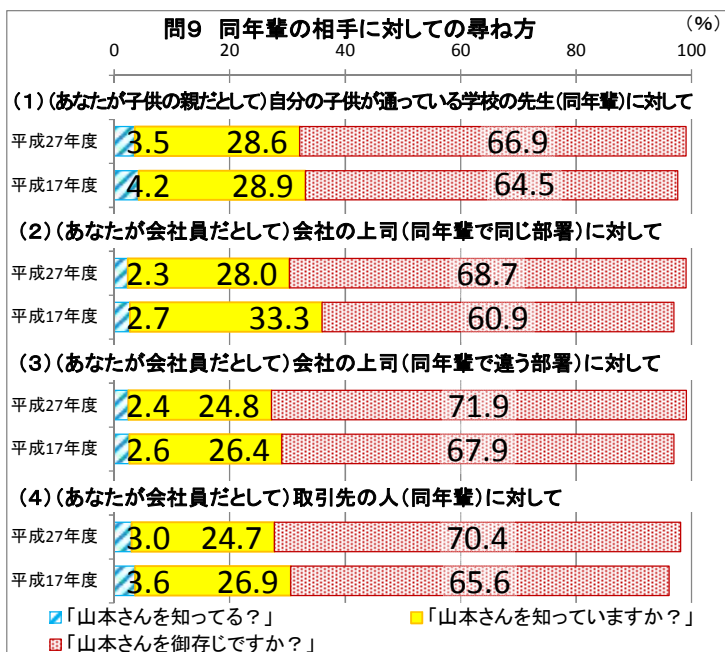
「お疲れ様(でした)」は、「(1)一緒に働いた人が、自分より職階が上の人の場合」が76.0%、「(2)一緒に働いた人が、自分より職階が下の人の場合」が61.4%と、それぞれ最も高くなっ

ている。

過去の調査結果(平成17年度)と比較すると、「お疲れ様(でした)」は、「(1)一緒に働いた人が、自分より職階が上の人の場合」が7ポイント、「(2)一緒に働いた人が、自分より職階が下の人の場合」が8ポイントそれぞれ増加している。一方、「御苦労様(でした)」は、「(1)一緒に働いた人が、自分より職階が上の人の場合」が6ポイント、「(2)一緒に働いた人が、自分より職階が下の人の場合」が8ポイントそれぞれ減少している。

同年輩の相手に対して「〇〇さんを知っているかどうか」をどのように尋ねるか＜問 9＞（P. 30）

—全ての場面において「〇〇さんを御存じですか？」という言い方が増加 —



〔全体・過去の調査との比較〕

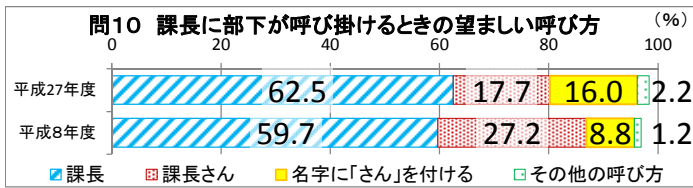
「山本さんを知っているかどうか」を聞く場合、何と言うかを、四つの場合それぞれについて尋ねた。

「山本さんを御存じですか？」は、「(3)(あなたが会社員として)会社の上司(同年輩で違う部署)に対して」が71.9%と最も高く、次いで、「(4)(あなたが会社員として)取引先の人(同年輩)に対して」が70.4%となっている。

過去の調査結果(平成17年度)と比較すると、全ての場面において「山本さんを御存じですか？」が増加し、「山本さんを知っていますか？」が減少している。特に、「(2)(あなたが会社員として)会社の上司(同年輩で同じ部署)に対して」では、「山本さんを御存じですか？」が8ポイント増加し、「山本さんを知っていますか？」が5ポイント減少している。

課長に部下が呼び掛けるとき、どの呼び方が一番望ましいと思うか＜問10＞（P. 34）

—「名字に「さん」を付ける」が、過去調査（平成8年度）から約2倍の16.0%に増—



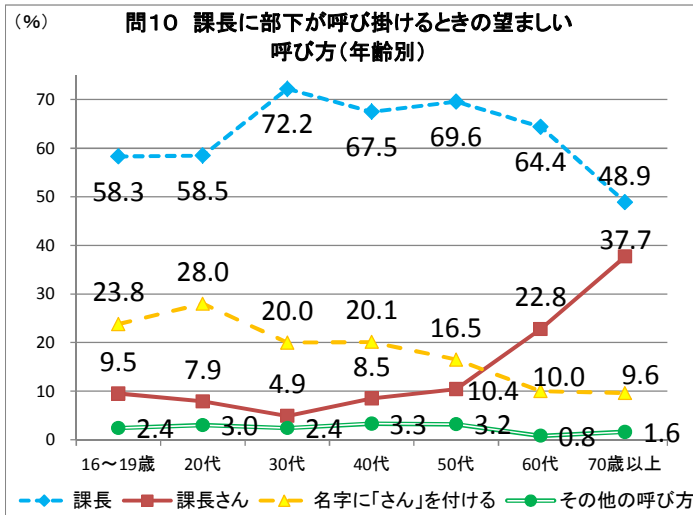
〔全体・過去の調査との比較〕

会社の課長に部下が呼び掛けるとき、どの呼び方が一番望ましいと思うか尋ねた。

「課長」が62.5%と最も高く、次いで、「課長さん」(17.7%)、「名字に「さん」を付ける」(16.0%)とな

っている。

過去の調査結果(平成8年度)と比較すると、「名字に「さん」を付ける」が7ポイント増加しているが、「課長さん」は10ポイント減少している。

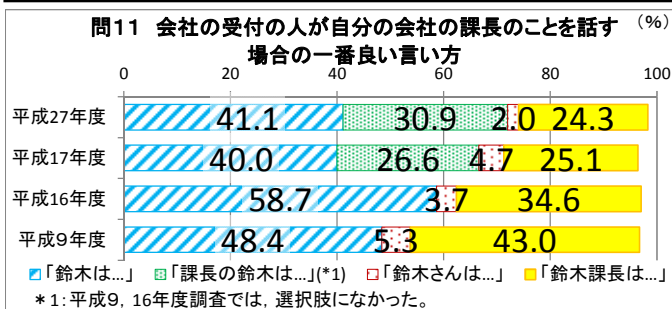


〔年齢別〕

年齢別に見ると、「課長」は、16～19歳、20代、70歳以上で他の年代より低く、5割弱から5割台後半となっている。一方、「課長さん」は、30代以降年代が上がるに従って増加しており、70歳以上で37.7%と最も高くなっている。「名字に「さん」を付ける」は、40代以下で他の年代より高く2割台となっており、特に20代では28.0%と最も高くなっている。

会社の受付の人が外部の人へ、自分の会社の〇〇課長のことを話す場合の一番良い言い方＜問11＞（P. 37）

—「〇〇は…」が最も高く約4割、「課長の〇〇は…」が約3割—



〔全体・過去の調査との比較〕

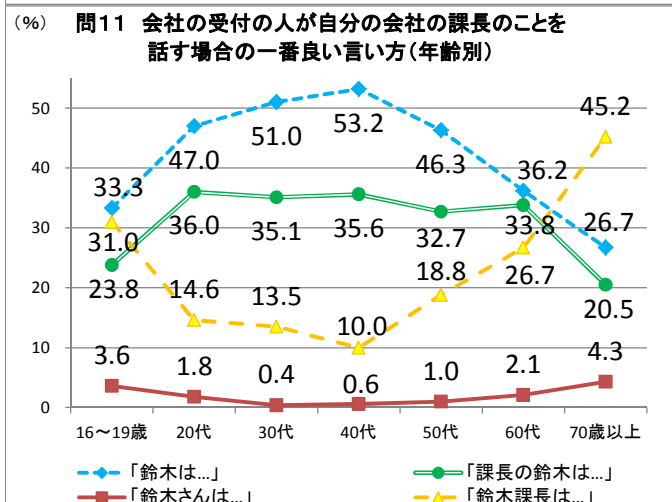
会社の受付の人が、外部の人に、自分の会社の鈴木課長のことを話す場合、どういう言い方をするのが一番良いと思うかを尋ねた。

「鈴木は…」が41.1%と最も高く、次いで、「課長の鈴木は…」(30.9%)、「鈴木課長は…」(24.3%)となっている。

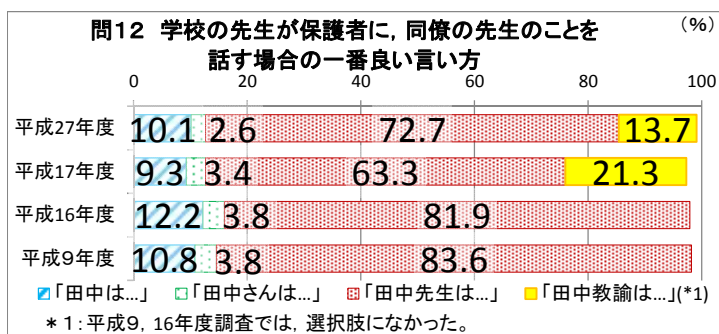
過去の調査結果(平成9、16、17年度)と比較すると、「課長の鈴木は…」は平成17年度調査から今回調査で4ポイント増加しており、「鈴木課長は…」は減少傾向にある。

〔年齢別〕

年齢別に見ると、「鈴木は…」は、20～50代で他の年代より高く4割台後半から5割台前半となっている。「課長の鈴木は…」は、20代から60代までで3割台となっているが、16～19歳と70歳以上で、2割台前半と低くなっている。「鈴木課長は…」は、70歳以上(45.2%)及び16～19歳(31.0%)で他の年代より高くなっている。



学校の先生が保護者に対して、同僚の先生のことを話す場合の一番良い言い方＜問 12＞（P. 42）
 —「〇〇先生は…」が7割以上，「〇〇教諭は…」が13.7%—



〔全体・過去の調査との比較〕

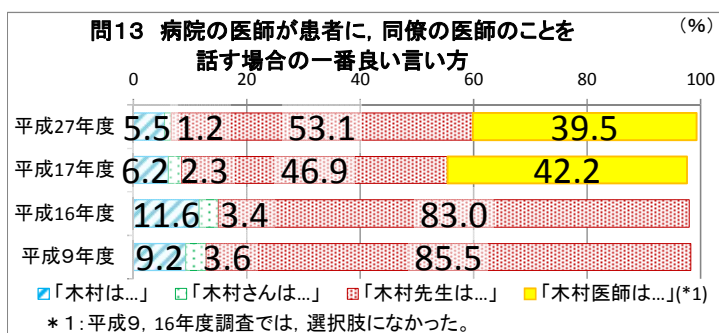
学校の先生が生徒の保護者に、同僚の田中先生のことを話す場合、どういう言い方をするのが一番良いと思うかを尋ねた。

「田中先生は…」が 72.7%と最も高く、次いで、「田中教諭は…」(13.7%)、「田中は…」(10.1%)となっている。

過去の調査結果(平成9, 16, 17 年度)と比較すると、平成 17 年度調査から今回調査に掛

けて、「田中先生は…」は9ポイント増加しているが、「田中教諭は…」は8ポイント減少している。

病院の医師が患者に対して、同僚の医師のことを話す場合の一番良い言い方＜問 13＞（P. 46）
 —「〇〇先生は…」が5割台前半，「〇〇医師は…」が約4割 —



〔全体・過去の調査との比較〕

病院の医師が大人の患者に、同僚の木村医師のことを話す場合、どういう言い方をするのが一番良いと思うかを尋ねた。

「木村先生は…」が 53.1%と最も高く、次いで、「木村医師は…」(39.5%)、「木村は…」(5.5%)となっている。

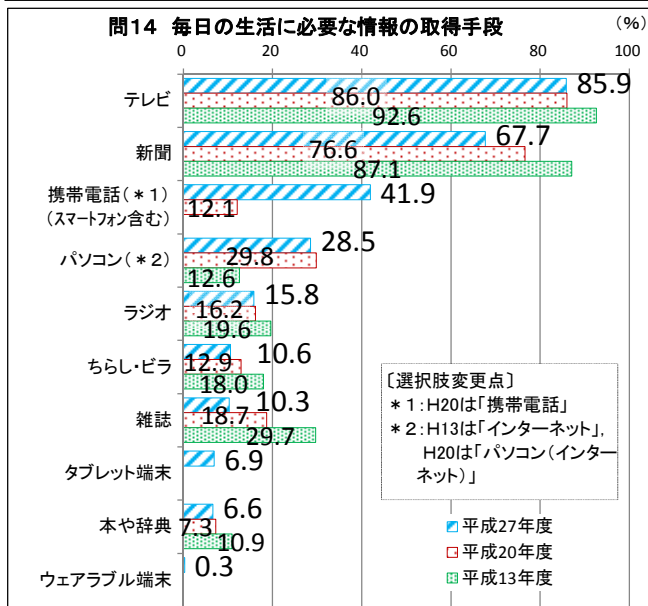
過去の調査結果(平成9, 16, 17 年度)と比較すると、平成 17 年度調査から今回調査に掛

けて、「木村先生は…」は6ポイント増加しているが、「木村医師は…」は3ポイント減少している。

3 情報化の中でのコミュニケーション

毎日の生活に必要な情報を何から得ているか＜問 14＞（P. 50）

—「携帯電話（スマートフォン含む）」が大きく増加，紙媒体（新聞，雑誌等）は減少傾向 —

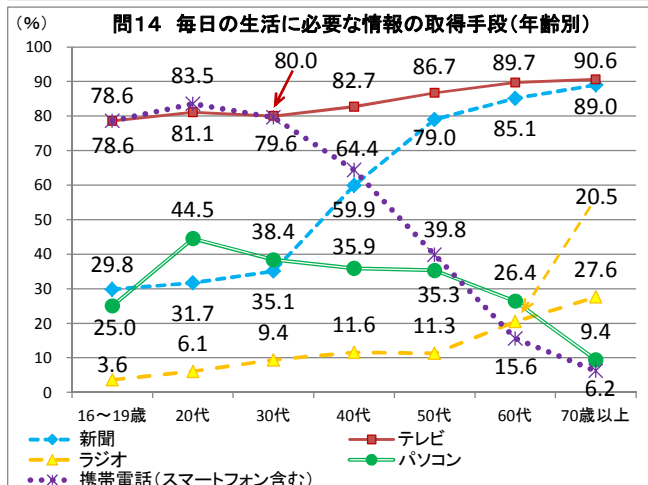


〔全体・過去の調査との比較〕

毎日の生活に必要な情報を何から得ているか，利用することの多いものを尋ねた（選択肢の中から三つまで回答）。

「テレビ」が 85.9%と最も高く，次いで「新聞」（67.7%），「携帯電話（スマートフォン含む）」（41.9%），「パソコン」（28.5%）となっている。

過去の調査結果（平成 13，20 年度）と比較すると，「新聞」，「ちらし・ビラ」，「雑誌」，「本や辞典」といった紙媒体の情報源は減少傾向にあり，「携帯電話（スマートフォン含む）」は平成 20 年度調査から今回調査で増加している。



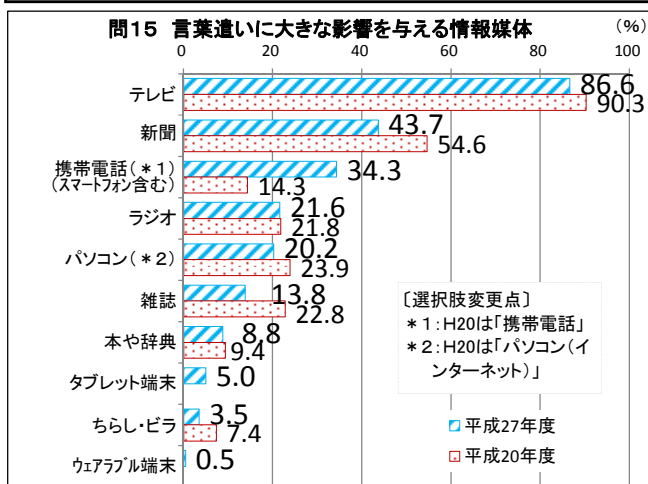
〔年齢別〕

年齢別に見ると，「テレビ」は，60代以上で他の年代より高く9割前後となっている。「新聞」は年代が上がるに従って高くなり，20 代以下では3割前後であるが，60 代以上では8割台後半となっている。「携帯電話（スマートフォン含む）」は，20 代が 83.5%と最も高く，20 代以降，年代が上がるに従って低くなっている。

「携帯電話（スマートフォン含む）」は，30 代以下では「テレビ」の割合と同水準となり，「新聞」の割合の倍以上となっているが，50 代以上では「新聞」を下回り，70 歳以上では「新聞」より 83 ポイント低くなっている。

言葉や言葉の使い方に大きな影響を与えるのは何だと思うか＜問 15＞（P. 53）

—「携帯電話（スマートフォン含む）」が平成 20 年度調査から 20 ポイント増の 34.3% —

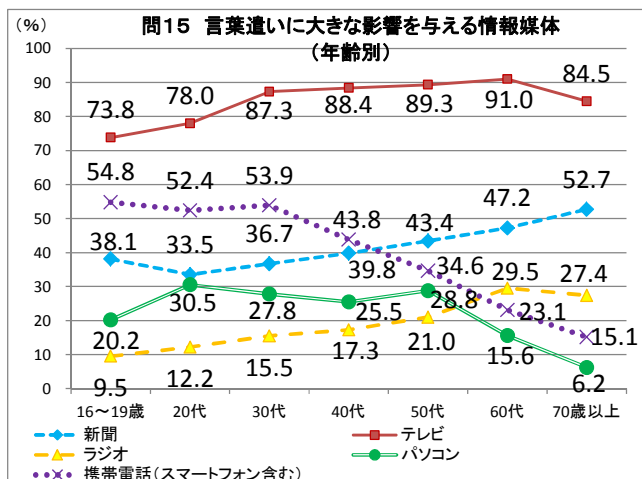


〔全体・過去の調査との比較〕

情報の伝達に使用されるもののうち，言葉や言葉の使い方に大きな影響を与えると思うものを尋ねた（選択肢の中から三つまで回答）。

「テレビ」が 86.6%と最も高く，次いで，「新聞」（43.7%），「携帯電話（スマートフォン含む）」（34.3%）となっている。

過去の調査結果（平成 20 年度）と比較すると，「新聞」，「雑誌」，「本や辞典」，「ちらし・ビラ」は減少し，「携帯電話（スマートフォン含む）」は増加した。



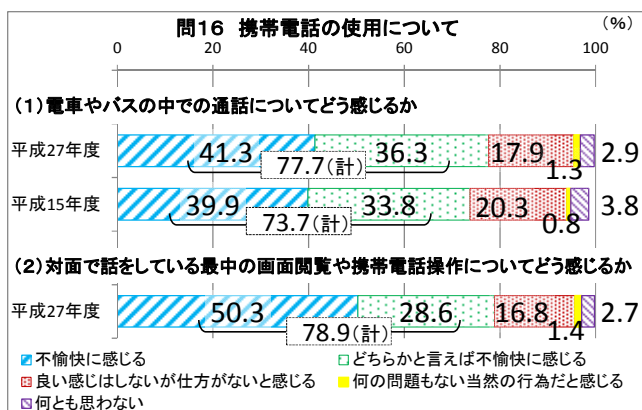
〔年齢別〕

年齢別に見ると、「テレビ」は、30 歳以上で、8割台半ば～9割強となっている。「新聞」は 20 代(33.5%)から年代が上がるに従って高くなっている。「携帯電話(スマートフォン含む)」は、年代が下がるに従って高くなる傾向があり、30 代以下で5割台前半となっている。「ラジオ」は、年代が上がるに従って高くなる傾向があり、60 代以上で2割台後半となっている。

次の各場面での携帯電話(スマートフォン含む)の使用についてどう感じるか<問 16> (P. 56)

—(1)電車やバスの中での通話について、「不愉快に感じる(計)」は4ポイント増加し7割台後半、

(2)対面で話をしている最中の画面閲覧、携帯電話操作について、「仕方がない」は 40 代以下で2割以上—



〔全体・過去の調査との比較〕

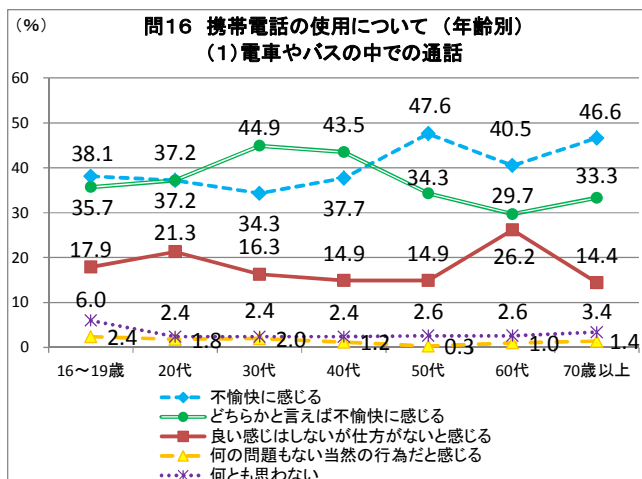
「(1) 電車やバスの中で携帯電話(スマートフォン含む)を使って話をしている人がいる場合」、「(2) 対面で話をしている最中に携帯電話(スマートフォン含む)の画面を見たり、操作をしたりしている場合」について、どのように感じるかをそれぞれ尋ねた。

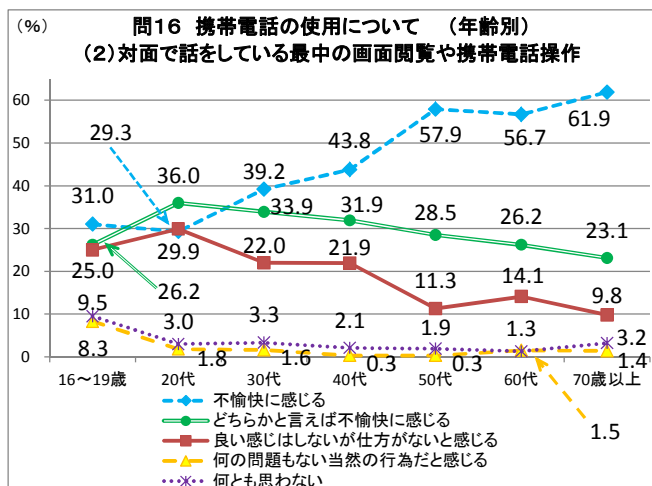
「不愉快に感じる」は、(1)が41.3%、(2)が50.3%となっている。

過去の調査結果(平成 15 年度)と比較すると、(1)は、「不愉快に感じる(計)」が、4ポイント増加し77.7%となっている。

〔年齢別〕

年齢別に見ると、(1)では、「不愉快に感じる」が 50 代以上で4割台、40 代以下で3割台となっている。「良い感じはしないが仕方がないと感じる」は、60 代で他の年代より高く26.2%となっている。

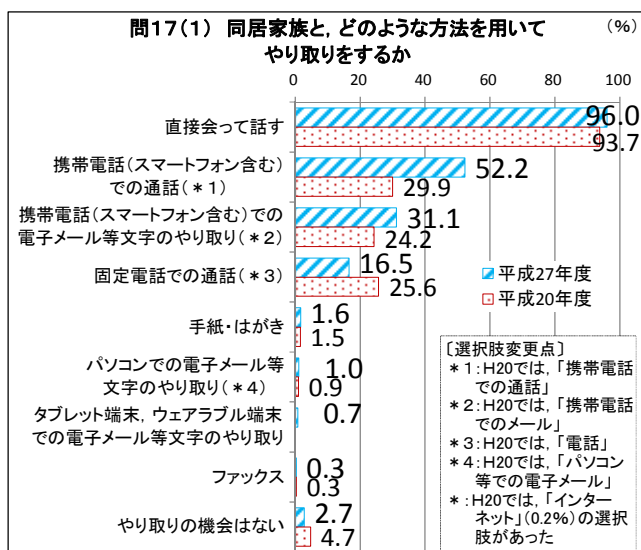




年齢別に見ると、(2)では、「不愉快に感じる」が20代で29.3%と最も低く、20代以降、年代が上がるに従って高くなる傾向にある。「良い感じはしないが仕方がないと感じる」は、40代以下で50代以上より高く2割台となっている。「何の問題もない当然の行為だと感じる」及び「何とも思わない」は、16～19歳で他の年代より高く1割弱となっている。

相手とどのような方法を用いてやり取りをするか<問17> (P. 58)

—どんな相手に対しても「携帯電話(スマートフォン含む)での通話」は増加し、「固定電話での通話」は減少—



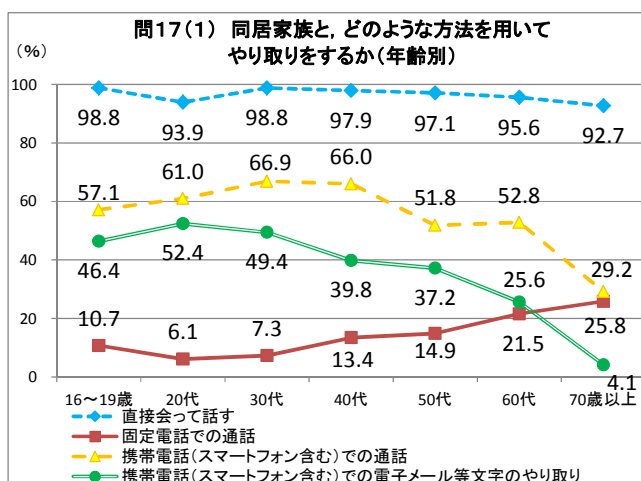
(1) 同居している家族や親族

〔全体・過去の調査との比較〕

同居している家族や親族とやり取りをするとき、どのような方法を用いているかを尋ねた(選択肢の中から三つまで回答)。

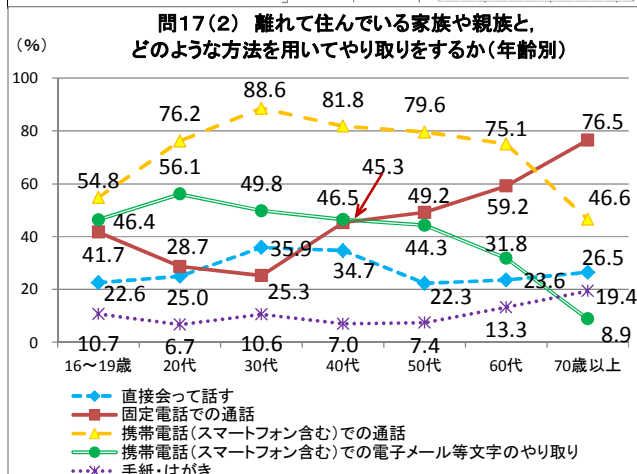
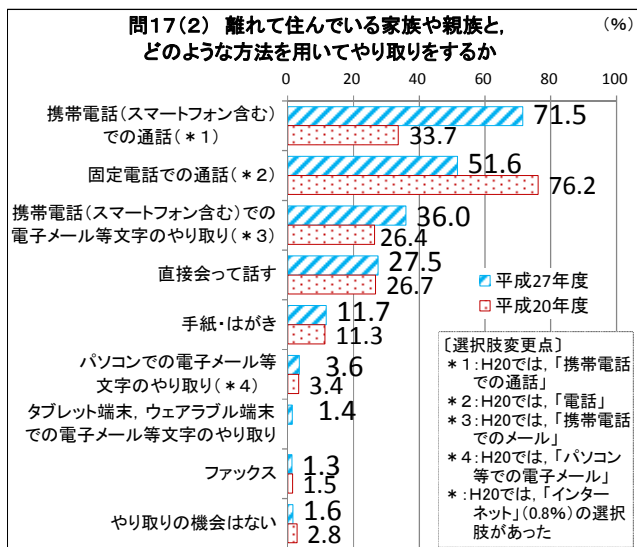
「直接会って話す」が96.0%と最も高く、次いで「携帯電話(スマートフォン含む)での通話」(52.2%)、「携帯電話(スマートフォン含む)での電子メール等文字のやり取り」(31.1%)となっている。

過去の調査結果(平成20年度)と比較すると、「携帯電話(スマートフォン含む)での通話」、「携帯電話(スマートフォン含む)での電子メール等文字のやり取り」は増加し、「固定電話での通話」は減少している。



〔年齢別〕

年齢別に見ると、「携帯電話(スマートフォン含む)での通話」は、20～40代で他の年代より高く6割台となっている。「携帯電話(スマートフォン含む)での電子メール等文字のやり取り」は、20代(52.4%)で最も高く、20代以降、年代が上がるに従って低くなる傾向がある。



(2) 離れて住んでいる家族や親族 【全体・過去の調査との比較】

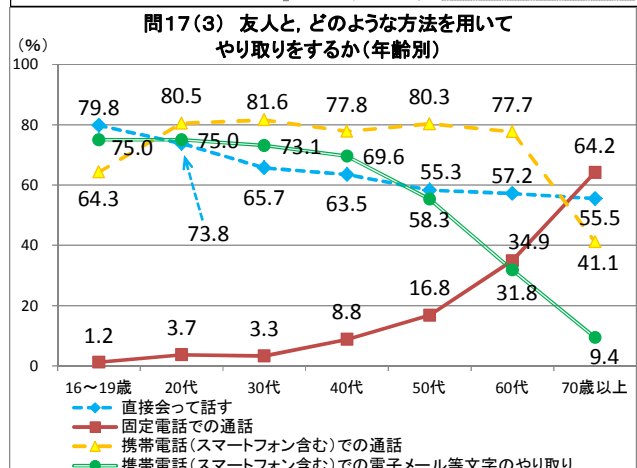
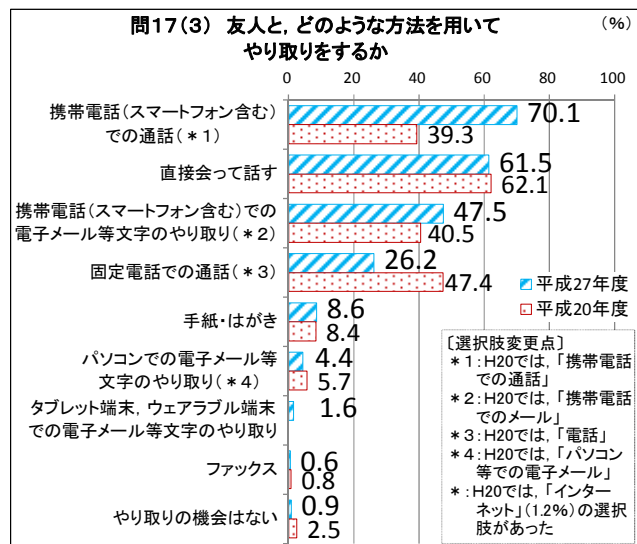
離れて住んでいる家族や親族とやり取りをするとき、どのような方法を用いているかを尋ねた(選択肢の中から三つまで回答)。

「携帯電話(スマートフォン含む)での通話」が71.5%と最も高く、次いで「固定電話での通話」(51.6%)となっている。

過去の調査結果(平成20年度)と比較すると、「携帯電話(スマートフォン含む)での通話」、「携帯電話(スマートフォン含む)での電子メール等文字のやり取り」は増加し、「固定電話での通話」は減少している。

【年齢別】

年齢別に見ると、「携帯電話(スマートフォン含む)での通話」は、20~60代で7割台半ばから9割弱となっている。「固定電話での通話」は、70歳以上で最も高く76.5%、次いで60代で59.2%となっている。



(3) 友人

【全体・過去の調査との比較】

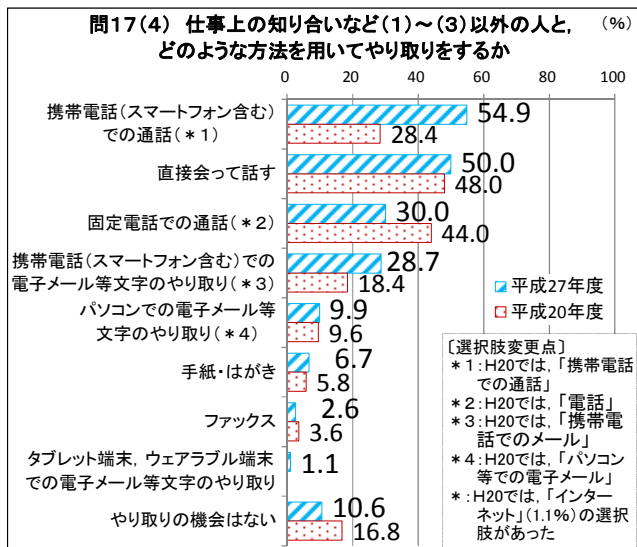
友人とやり取りをするとき、どのような方法を用いているかを尋ねた(選択肢の中から三つまで回答)。

「携帯電話(スマートフォン含む)での通話」が70.1%と最も高く、次いで「直接会って話す」(61.5%)となっている。

過去の調査結果(平成20年度)と比較すると、「携帯電話(スマートフォン含む)での通話」、「携帯電話(スマートフォン含む)での電子メール等文字のやり取り」は増加し、「固定電話での通話」は減少している。

【年齢別】

年齢別に見ると、「携帯電話(スマートフォン含む)での通話」は、20~60代で8割前後となっている。「携帯電話(スマートフォン含む)での電子メール等文字のやり取り」は、年代が低いほど高くなる傾向があり、30代以下で7割台となっているが、「固定電話での通話」は、年代が高いほど高くなる傾向がある。

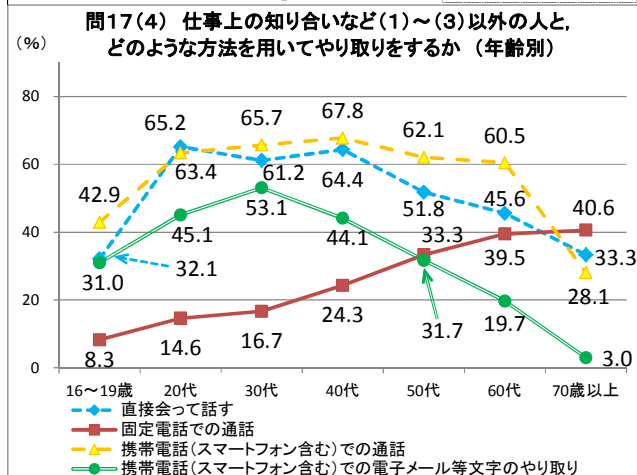


〔4〕仕事上の知り合いなど、(1)～(3)以外の人 〔全体・過去の調査との比較〕

仕事上の知り合いなど、(1)～(3)以外の人とやり取りをするとき、どのような方法を用いているかを尋ねた(選択肢の中から三つまで回答)。

「携帯電話(スマートフォン含む)での通話」が54.9%と最も高く、次いで、「直接会って話す」(50.0%)、「固定電話での通話」(30.0%)、「携帯電話(スマートフォン含む)での電子メール等文字のやり取り」(28.7%)となっている。

過去の調査結果(平成20年度)と比較すると、「携帯電話(スマートフォン含む)での通話」、「携帯電話(スマートフォン含む)での電子メール等文字のやり取り」は増加し、「固定電話での通話」は減少している。



〔年齢別〕

年齢別に見ると、「携帯電話(スマートフォン含む)での通話」は、20～60代で6割台となっている。「直接会って話す」は、20～40代で他の年代より高く6割台となっている。

インターネットを利用することがあるか＜問18＞ (P. 70)

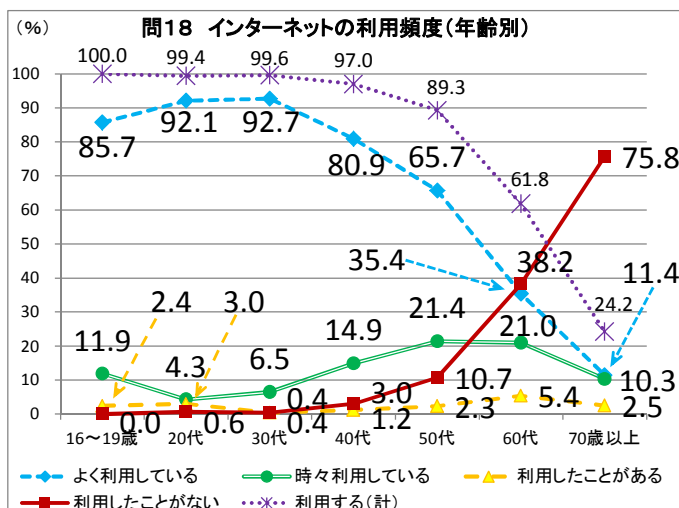
—「利用する(計)」が、40代以下で97%以上、「利用したことがない」が、70歳以上で75.8% —



〔全体・過去の調査との比較〕

ふだん、パソコン・携帯電話(スマートフォン含む)・その他の電子機器などを通して、インターネットを利用することがあるかを尋ねた。

「よく利用している」(56.5%)と「時々利用している」(14.0%)と「利用したことがある」(2.6%)を合わせた「利用する(計)」は73.1%となっている。

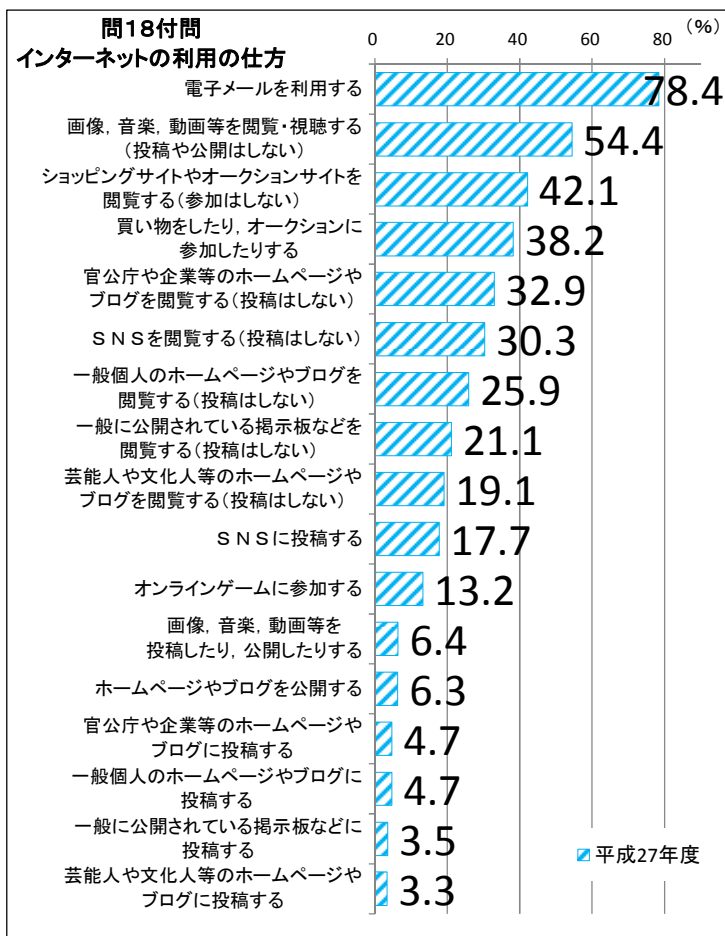


〔年齢別〕

年齢別に見ると、「利用する(計)」は、16～19歳で100%となっており、年代が上がるに従って低くなる傾向があり、60代で61.8%、70歳以上で24.2%となっている。一方、「利用したことがない」は年代が上がるに従って高くなる傾向があり、70歳以上(75.8%)で「利用する(計)」を52ポイント上回っている。

どのようにインターネットを利用するか＜問 18 付＞（P. 70）

—電子メールを除き、双方向的な利用（投稿や公開をする）は少ない—



〔全体〕

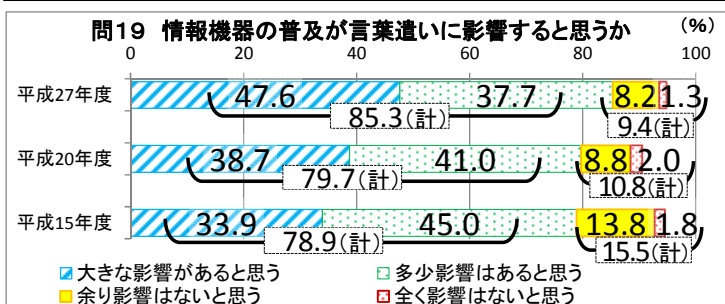
ふだん、インターネットを「利用する(計)」と答えた人(全体の 73.1%)に、どのようにインターネットを利用するかを尋ねた(選択肢の中から全て回答)。

「電子メールを利用する」が 78.4%と最も高く、次いで「画像、音楽、動画等を閲覧・視聴する(投稿や公開はしない)」(54.4%)、「ショッピングサイトや、オークションサイトを閲覧する(参加はしない)」(42.1%)となっている。

「投稿する」という選択肢の中では、「SNSに投稿する」が 17.7%と最も高く、次いで「オンラインゲームに参加する」(13.2%)、「画像、音楽、動画等を投稿したり、公開したりする」(6.4%)となっている。

情報機器の普及によって、言葉や言葉の使い方が影響を受けると思うか＜問 19＞（P. 75）

—「影響はあると思う」と 85%以上が回答—



〔全体・過去の調査との比較〕

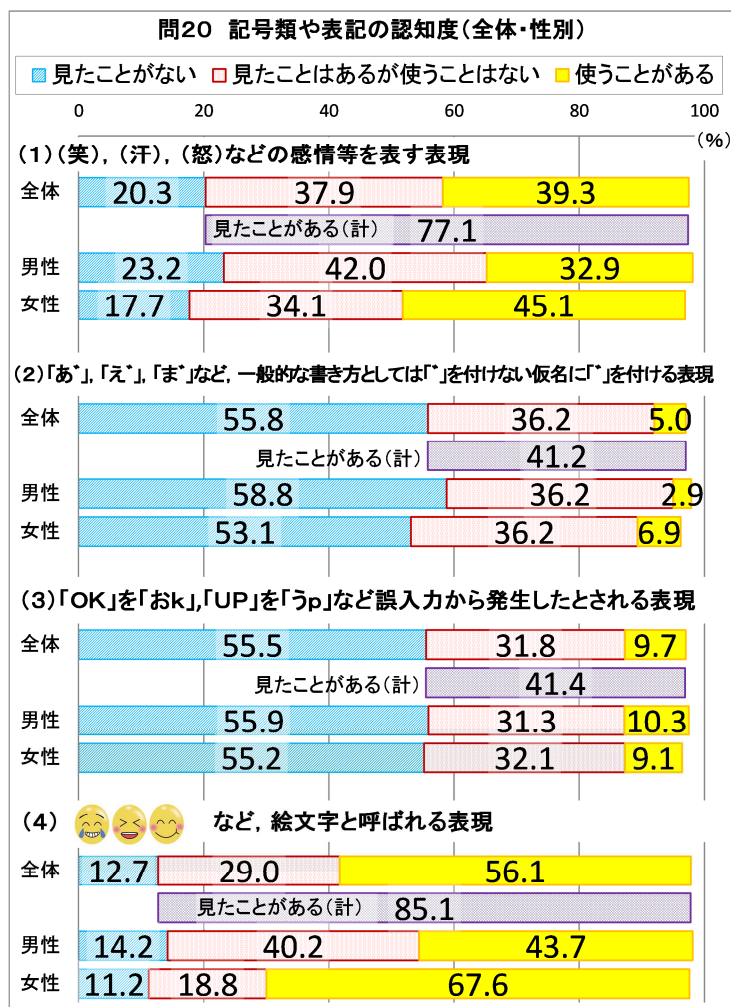
パソコンや携帯電話(スマートフォン含む)などの情報機器の普及によって、言葉や言葉の使い方が影響を受けると思うかを尋ねた。

「大きな影響があると思う」(47.6%)と「多少影響があると思う」(37.7%)を合わせた「影響はあると思う(計)」は 85.3%となっている。

過去の調査結果(平成 15、20 年度)と比較すると、「影響はあると思う(計)」は平成 20 年度調査から今回調査で6ポイント増加している。

次に挙げるような記号類や表記を用いた表現を見たことがあるか＜問 20＞（P. 80）

—「見たことがある（計）」は、「😄😅😆」などが85.1%、「（笑）,（汗）,（怒）など」が77.1%、一方、「おk」、「うp」などは41.4%、「あゝ」、「えゝ」、「まゝ」などは41.2%となっている—



〔全体・性別〕

(1)「（笑）,（汗）,（怒）などの感情を表す表現

（笑）,（汗）,（怒）などの感情等を表す表現を見たことがあるか、また、使ったことがあるかを尋ねた。

「使うことがある」が 39.3%と最も高く、次いで、「見たことはあるが使うことはない」(37.9%)となっている。

性別に見ると、「使うことがある」は女性の方が 12 ポイント高いが、「見たことはあるが使うことはない」は男性の方が8ポイント高くなっている。

(2)「あゝ」「えゝ」「まゝ」など、一般的な書き方としては「ゝ」(濁点)を付けない仮名に「ゝ」(濁点)を付ける表現

「あゝ」「えゝ」「まゝ」など、一般的な書き方としては「ゝ」(濁点)を付けない仮名に「ゝ」(濁点)を付ける表現を見たことがあるか、また、使ったことがあるかを尋ねた。

「見たことがない」が 55.8%と最も高くなっている。

性別に見ると、「見たことがない」は男性の方が6ポイント高くなっている。

(3)「OK」を「おけ」や「おk」、「UP」を「うp」など、誤入力から発生したとされる表現

「OK」を「おけ」や「おk」、「UP」を「うp」など、

誤入力から発生したとされる表現を見たことがあるか、また、使ったことがあるかを尋ねた。

「見たことがない」が 55.5%と最も高くなっている。

性別に見ると、余り変化は見られない。

(4) 😄😅😆 など、絵文字と呼ばれる表現

😄😅😆 など、絵文字と呼ばれる表現を見たことがあるか、また使ったことがあるかを尋ねた。

「使うことがある」(56.1%)と「見たことはあるが使うことはない」(29.0%)を合わせた「見たことがある(計)」は 85.1%となっている。

性別に見ると、「使うことがある」は女性の方が 24 ポイント高いが、「見たことはあるが使うことはない」は男性の方が 21 ポイント高くなっている。

4 「ら抜き」, 「さ入れ」, 「やる／あげる」

どちらの言い方を普通使うか＜問 21＞ (P. 95)

— 「見れた」 (48.4%) が 「見られた」 (44.6%) を,
「出れる？」 (45.1%) が 「出られる？」 (44.3%) を, 今回調査において初めて上回る —

		(数字は%)			
		(ア)を 使う	(イ)を 使う	どちら も使う	分から ない
(1)	(ア)こんなにたくさんは <u>食べられない</u> (イ)こんなにたくさんは <u>食べれない</u>	60.8	32.0	6.8	0.4
(2)	(ア)朝5時に <u>来られますか</u> (イ)朝5時に <u>来れますか</u>	45.4	44.1	9.8	0.7
(3)	(ア)彼が来るなんて <u>考えられない</u> (イ)彼が来るなんて <u>考えれない</u>	88.6	7.8	2.9	0.8
(4)	(ア)今年は初日の出が <u>見られた</u> (イ)今年は初日の出が <u>見れた</u>	44.6	48.4	6.5	0.4
(5)	(ア)早く <u>出られる？</u> (イ)早く <u>出れる？</u>	44.3	45.1	10.2	0.5
(6)	(ア)明日は <u>休ませていただきます</u> (イ)明日は <u>休まさせていただきます</u>	79.6	16.8	3.1	0.5
(7)	(ア)今日はこれで <u>帰らせてください</u> (イ)今日はこれで <u>帰らさせていただきます</u>	80.3	16.9	2.1	0.7
(8)	(ア)担当の者を <u>伺わせます</u> (イ)担当の者を <u>伺わさせていただきます</u>	75.5	20.7	2.9	0.8
(9)	(ア)絵を <u>見せてください</u> (イ)絵を <u>見ささせていただきます</u>	59.6	32.7	7.5	0.2
(10)	(ア)私が <u>読ませていただきます</u> (イ)私が <u>読まさせていただきます</u>	71.9	23.2	4.3	0.6
(11)	(ア)植木に水を <u>やる</u> (イ)植木に水を <u>あげる</u>	59.8	33.6	6.4	0.1
(12)	(ア)うちの子におもちゃを買って <u>やりたい</u> (イ)うちの子におもちゃを買って <u>あげたい</u>	35.6	57.0	7.1	0.3
(13)	(ア)相手チームにはもう1点も <u>やれない</u> (イ)相手チームにはもう1点も <u>あげられない</u>	74.4	21.0	4.1	0.5

〔全体〕

表に挙げた(1)～(13)の二つの言い方のうち、普通使うものはどちらかを尋ねた。結果は左のとおり。

このうち、(1)～(5)は「れる／られる」が後に続く言い方について尋ねたものである。なお、「食べれない」、「来れますか」、「考えれない」、「見れた」、「出れる？」は、これまで共通語においては誤りとされてきており、新聞などでもほとんど用いられていない。

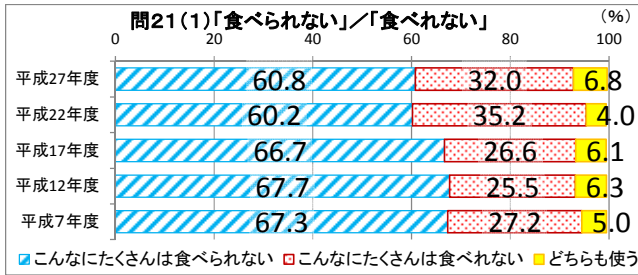
(6)～(10)は「せる／させる」が後に続く言い方について尋ねたものである。「休まさせていただきます」、「帰らさせていただきます」、「伺わさせていただきます」、「読まさせていただきます」の四つの言い方は、共通語においては誤りとされており、新聞などでもほとんど用いられていない。ただし、(9)で取り上げた、「見せてください／見ささせていただきます」は、どちらも文法的には問題のない表現である。「見せてください」は、下一段活用の動詞「見せる」の連用形に接続助

詞「て」と「ください」が付いた形、「見ささせていただきます」は、上一段活用の動詞「見る」の未然形に、使役の助動詞「させる」と「て」と「ください」が付いた形である。

(11)～(13)は「やる／あげる」について尋ねたものである。「敬語の指針」(平成19年文化審議会答申)では、「植木に水をあげる」という場合の「あげる」は、旧来の規範からすれば誤用とされるものであるが、この語の謙譲語から美化語に向かう意味的な変化は既に進行し、定着しつつあると言ってよい。」としている。

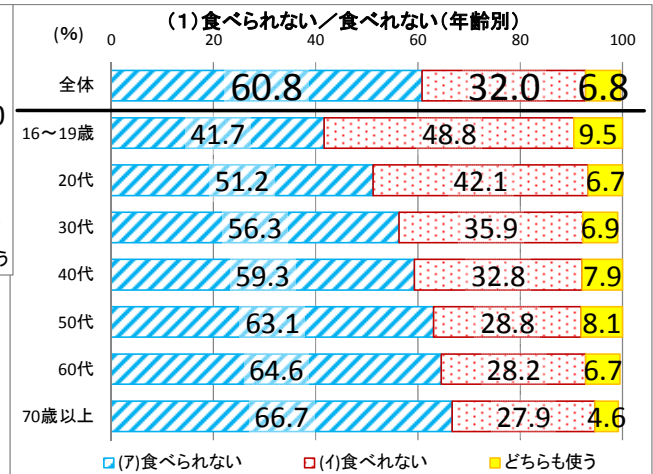
〔過去の調査との比較・年齢別〕

(1) 「食べられない／食べれない」

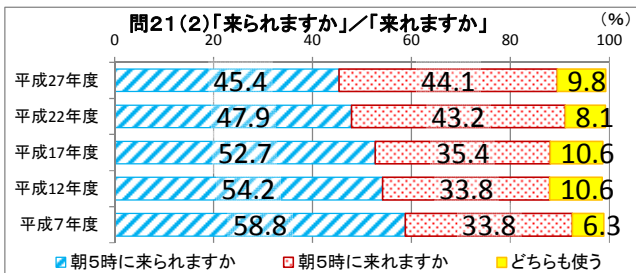


過去の調査結果(平成7, 12, 17, 22 年度)と比較すると、「食べられない」は、平成 17 年度調査から平成 22 年度調査に掛けて7ポイント減少しているが、平成 22 年度調査から今回調査では余り変化が見られない。

年齢別に見ると、「食べられない」は、年代が上がるに従って高くなり、「食べれない」は年代が上がるに従って低くなる。「食べれない」は、16～19 歳で 48.8%と「食べられない」(41.7%)を7ポイント上回っている。

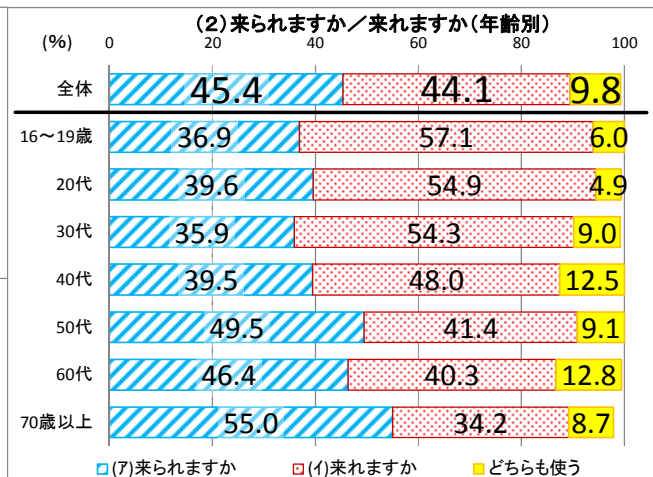


(2) 「来られますか／来れますか」

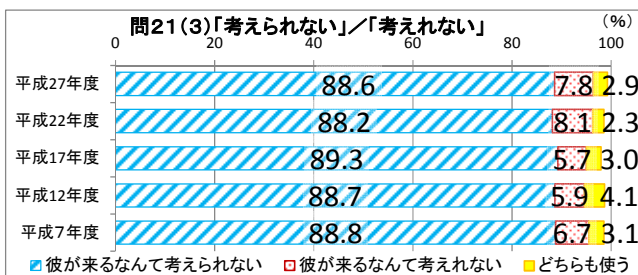


過去の調査結果(平成7, 12, 17, 22 年度)と比較すると、「来られますか」は減少傾向にある。「来れますか」は平成 12 年度(33.8%)以降増加傾向にあったが、平成 22 年度調査から今回調査では余り変化が見られない。

年齢別に見ると、「来られますか」は、40 代以下で3割台となっている。「来れますか」は、年代が低いほど高くなる傾向があり、40 代以下では、「来られますか」を9～20 ポイント上回っている。

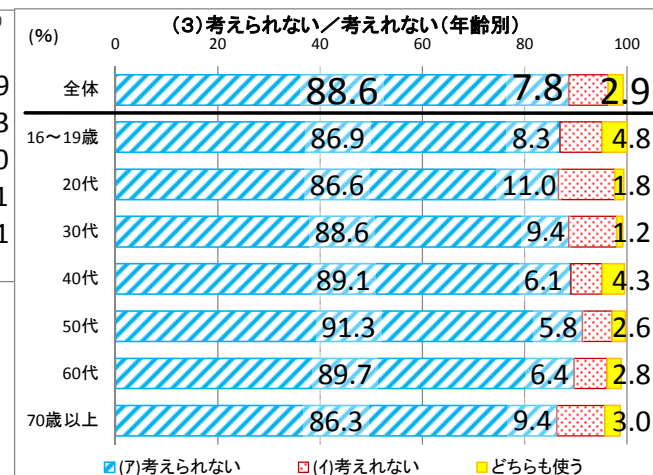


(3) 「考えられない／考えれない」

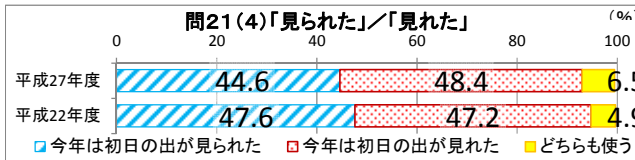


過去の調査結果(平成7, 12, 17, 22 年度)と比較すると、余り変化は見られない。

年齢別に見ると、「考えられない」は全ての年代で8割台後半～約9割となっている。

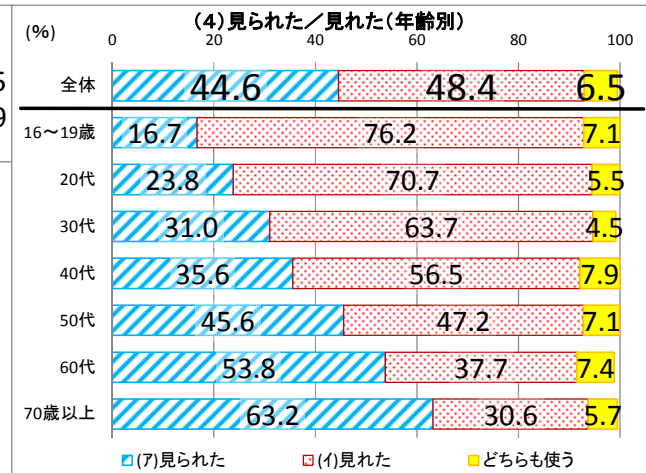


(4) 「見られた／見れた」

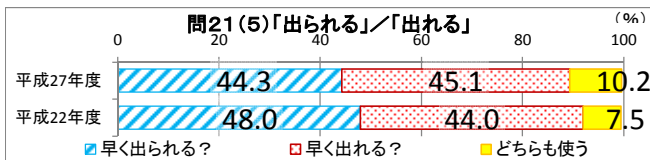


過去の調査結果(平成22年度)と比較すると、平成22年度調査では、「見られた」(47.6%)が「見れた」(47.2%)を上回っているが、今回調査では、「見れた」(48.4%)が「見られた」(44.6%)を上回っている。

年齢別に見ると、「見られた」は年代が上がるに従って高くなり、60代以上で5割を超え、「見れた」を上回っている。一方、「見れた」は、年代が下がるに従って高くなり、40代以下で5割を超え、「見られた」を上回っている。

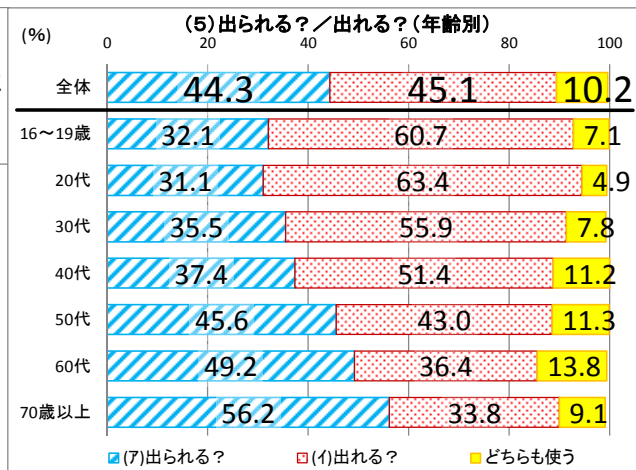


(5) 「出られる？／出れる？」

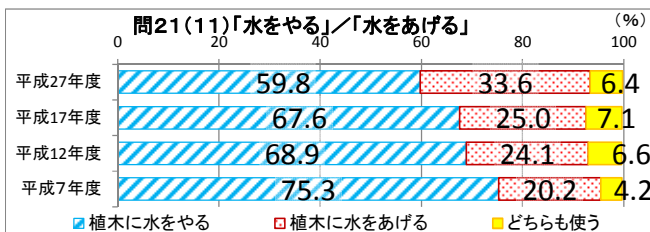


過去の調査結果(平成22年度)と比較すると、平成22年度調査では、「出られる？」(48.0%)が「出れる？」(44.0%)を上回っているが、今回調査では、「出れる？」(45.1%)が「出られる？」(44.3%)を上回っている。

年齢別に見ると、「出られる？」は、年代が高いほど高くなる傾向があり、70歳以上で5割台半ばとなっている。一方、「出れる？」は、年代が低いほど高くなる傾向があり、40代以下で5割を超え、「出られる？」を14～32ポイント上回っている。

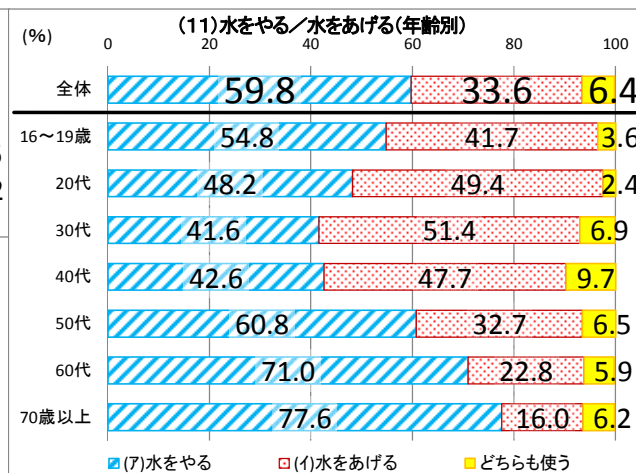


(11) 「水をやる／水をあげる」

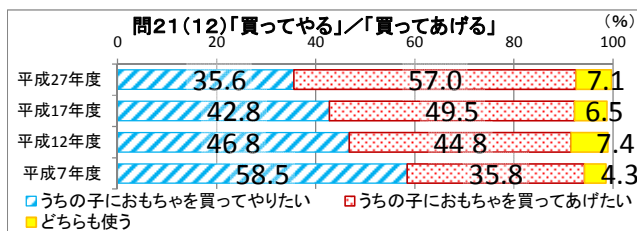


過去の調査結果(平成7, 12, 17年度)と比較すると、「水をあげる」は増加傾向にあり、平成17年度調査から今回調査に掛けて9ポイント増加している。一方、「水をやる」は減少傾向にある。

年齢別に見ると、「水をやる」は30代(41.6%)、40代(42.6%)を除いて5割弱～7割台後半となっており、特に60代以上で他の年代より高く7割台となっている。「水をあげる」は、20代～40代で他の年代より高く5割前後となり、30～40代では、「水をやる」を5～10ポイント上回っている。

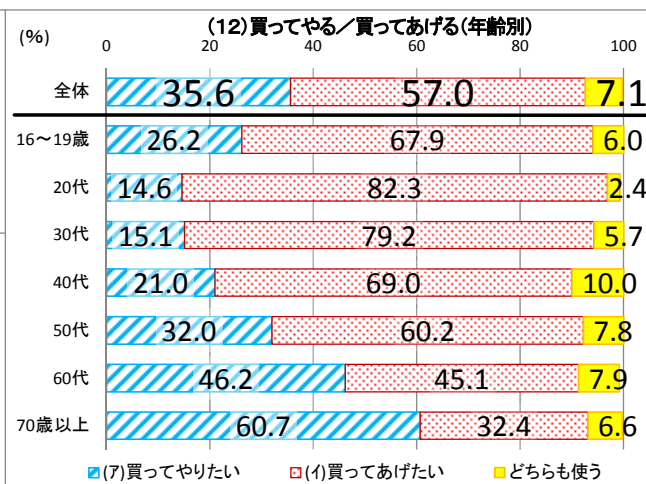


(12) 「買ってやりたい／買ってあげたい」

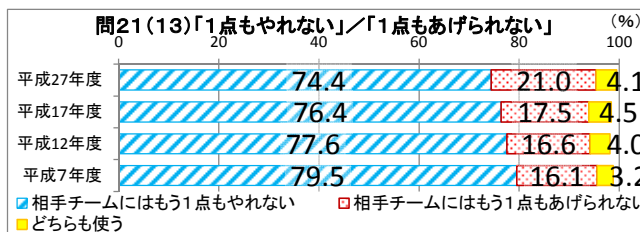


過去の調査結果(平成7, 12, 17 年度)と比較すると、平成12年度調査では、「買ってやりたい」が「買ってあげたい」を上回っているが、平成17年度調査では、「買ってあげたい」が「買ってやりたい」を上回っている。「買ってあげたい」は引き続き増加傾向にあり、平成17年度調査から今回調査に掛けて8ポイント増加している。

年齢別に見ると、「買ってやりたい」20代(14.6%)から年代が上がるに従って高くなり、70歳以上(60.7%)で「買ってあげたい」を28ポイント上回っている。「買ってあげたい」は70歳以上(32.4%)から年代が下がるに従って高くなる傾向にあり、50代以下では「買ってやりたい」を28～68ポイント上回っている。

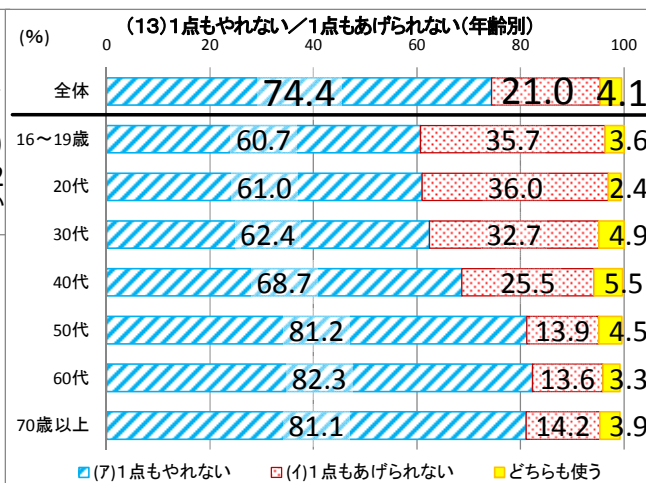


(13) 「1点もやれない／1点もあげられない」

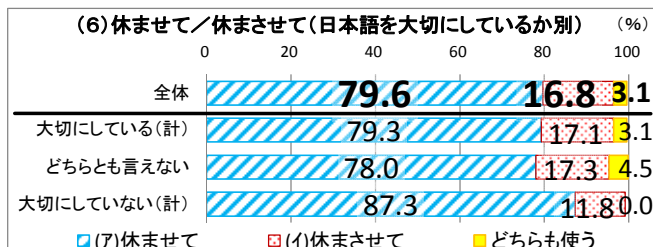


過去の調査結果(平成7, 12, 17 年度)と比較すると、「1点もやれない」は減少傾向にあり、一方、「1点もあげられない」は増加傾向にある。

年齢別に見ると、「1点もやれない」は、全ての年代において「1点もあげられない」を上回っており、特に50代以上で8割台となっている。「1点もあげられない」は、30代以下で他の年代より高く3割台となっている。

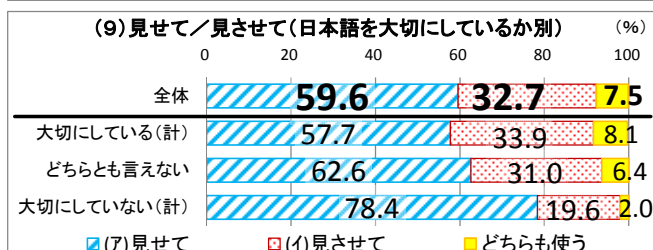


〔日本語を大切にしているか別(問1とのクロス)〕



(6) 「休ませて／休まさせて」

日本語を大切にしているか別に見ると、「休まさせて」は、日本語を「大切にしている(計)」と答えた人(17.1%)で、「大切にしていない(計)」と答えた人(11.8%)より5ポイント高くなっている。



(9) 「見せて／見させて」

日本語を大切にしているか別に見ると、「見させて」は、日本語を「大切にしている(計)」と答えた人(33.9%)で、「大切にしていない(計)」と答えた人(19.6%)より14ポイント高くなっている。

5 言葉に対する感覚

どちらの言い方を使うか<問 22> (P. 107)

—「悩ましい問題」(56.3%)が、「悩ましい目つき」(38.9%)を上回る—

(数字は%, 上段…平成 27 年度調査結果, 下段…【平成 13 年度調査結果】)

	(a)の方を使う	どちらも使う	(b)の方を使う	どちらも使わない	(a)を使う(計)	(b)を使う(計)
(1)(a)余りのすばらしさに鳥肌が立った (b)余りの恐ろしさに鳥肌が立った	34.6 【22.8】	27.4 【17.8】	29.1 【46.8】	8.4 【11.7】	62.0 【40.6】	56.6 【64.6】
(2)(a)まだ過去のことにこだわっている (b)食材にはほとんどこだわっている	20.9 【31.1】	53.6 【40.3】	18.5 【19.9】	6.1 【7.9】	74.5 【71.4】	72.1 【60.2】
(3)(a)悩ましい目つきで誘惑する (b)AかBかの選択は悩ましい問題だ	21.2 【39.1】	17.7 【9.1】	38.5 【22.4】	20.3 【26.9】	38.9 【48.2】	56.3 【31.5】
(4)(a)彼は理科系に進んだ (b)この曲は癒やし系だね	20.9 【39.4】	47.2 【28.3】	22.5 【18.6】	8.1 【11.5】	68.1 【67.7】	69.7 【46.9】
(5)(a)彼は興奮してしゃべりまくった (b)それを聞いて、彼は慌てまくった	46.4 【50.9】	30.8 【22.6】	8.2 【10.2】	13.8 【15.1】	77.2 【73.5】	39.0 【32.8】
(6)(a)乾燥して土が固まっている (b)君の言葉に彼が固まっている	39.8	44.1	9.3	6.2	83.9	53.4

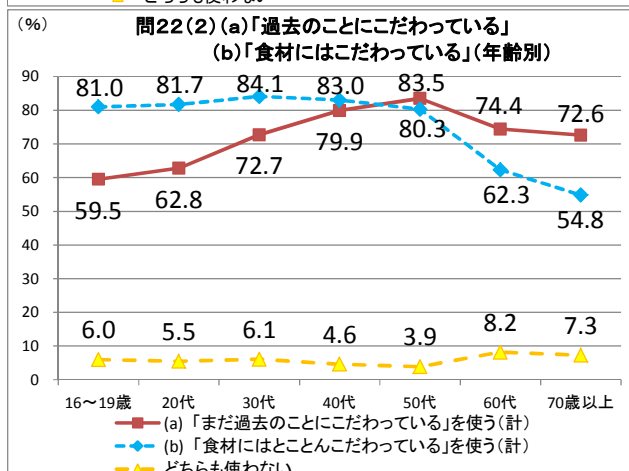
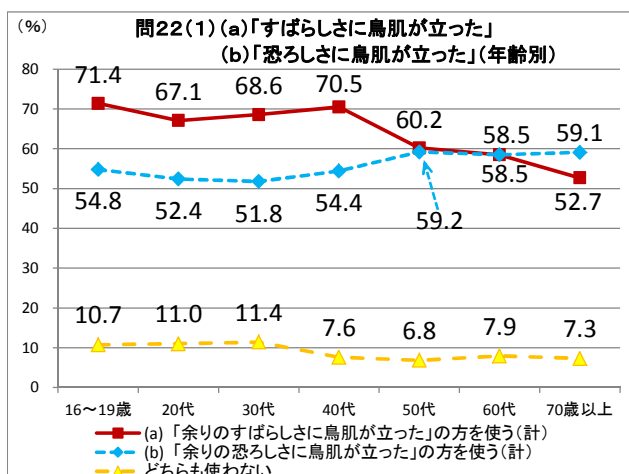
〔全体・過去の調査との比較〕

表に挙げた6組の言い方について、どちらの言い方を使うかを尋ねた。

今回尋ねた六つの言い方のうち、「どちらも使う」は、「(2)(a)「過去のことにこだわっている」／(b)「食材にはほとんどこだわっている」」が 53.6%と最も高く、次いで、

「(4)(a)「彼は理科系に進んだ」／(b)「この曲は癒やし系だね」(47.2%)」、「(6)(a)「乾燥して土が固まっている」／(b)「君の言葉に彼が固まっている」(44.1%)」となっている。

過去の調査結果(平成 13 年度)と比較すると、(1)では、「(a)すばらしさに鳥肌が立った」の方を使う割合は 12 ポイント、「どちらも使う」の割合は 10 ポイント増加した。一方、「(b)恐ろしさに鳥肌が立った」の方を使う割合は 18 ポイント減少した。(3)では、「(b)AかBかの選択は悩ましい問題だ」の方を使う割合は 16 ポイント、「どちらも使う」の割合は 9 ポイント増加した。一方、「(a)悩ましい目つきで誘惑する」の方を使う割合は 18 ポイント減少した。



〔年齢別〕

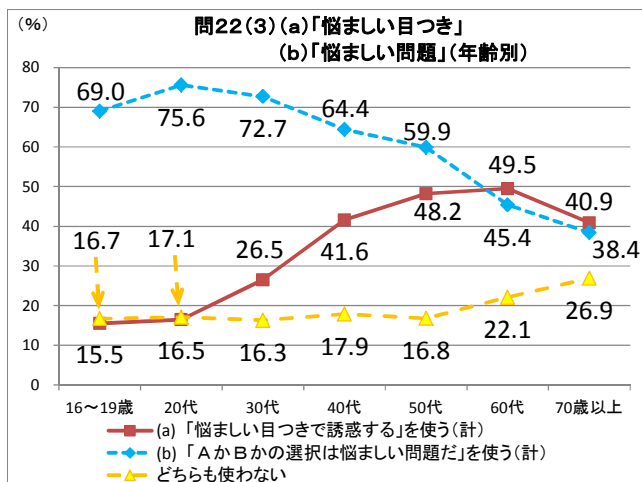
(1)(a)すばらしさに鳥肌が立った／(b)恐ろしさに鳥肌が立った
年齢別に見ると、比較的新しい使い方とされる「(a)すばらしさに鳥肌が立った」を使う(計)は、40 代以下で6割台後半から7割強となっている。

「(b)恐ろしさに鳥肌が立った」を使う(計)は、70 歳以上で「(a)すばらしさに鳥肌が立った」を使う(計)を6ポイント上回っている。

(2)(a)過去のことにこだわっている／(b)食材にはこだわっている

年齢別に見ると、「(a)過去のことにこだわっている」を使う(計)は、60 代以上で、比較的新しい使い方とされる「(b)食材にはこだわっている」を使う(計)を 12～18 ポイント上回っている。

「(b)食材にはこだわっている」を使う(計)は、30 代以下で「(a)過去のことにこだわっている」を使う(計)を 11～22 ポイント上回っている。

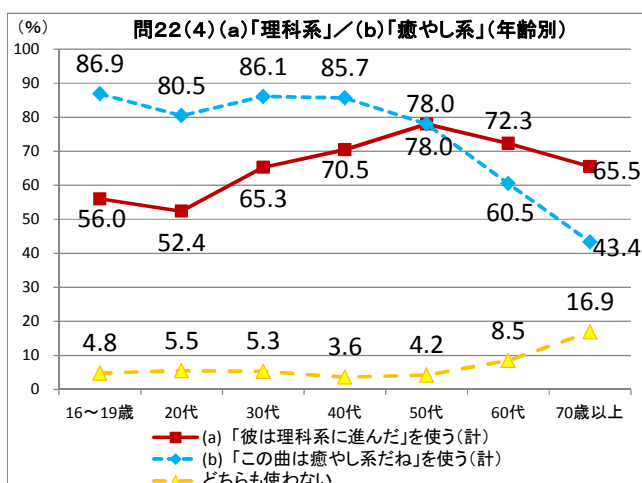


(3)(a)悩ましい目つき／(b)悩ましい問題

年齢別に見ると、「(a)悩ましい目つき」を使う(計)は、40代以上で30代以下より高く4割台となり、60代以上で「(b)悩ましい問題」を使う(計)を上回る。

「(b)悩ましい問題」を使う(計)は、50代以下で60代以上より高く約6割から7割台半ばとなり、「(a)悩ましい目つき」を使う(計)を12～59ポイント上回っている。

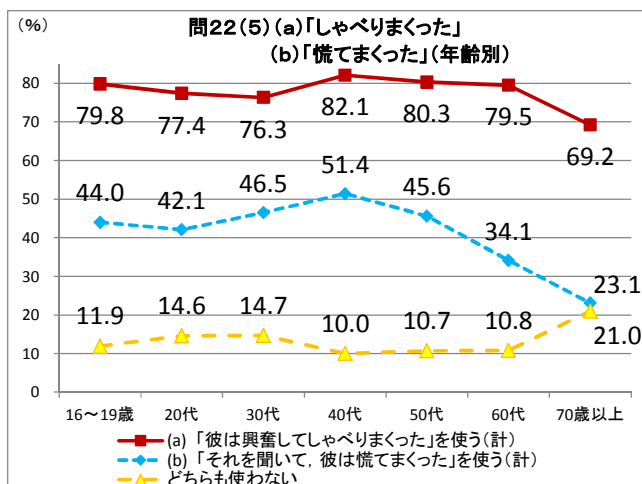
なお、(b)の方が新しい使い方と言われることがあるが、(a)よりも以前からある使い方であると、辞書等では説明されている。



(4)(a)理科系／(b)癒やし系

年齢別に見ると、「(a)理科系」を使う(計)は40～60代で7割台となっているが、比較的新しい使い方とされる「(b)癒やし系」を使う(計)を上回るのは60代以上である。また、「(a)理科系」を使う(計)は、70歳以上で「(b)癒やし系」を使う(計)を22ポイント上回っている。

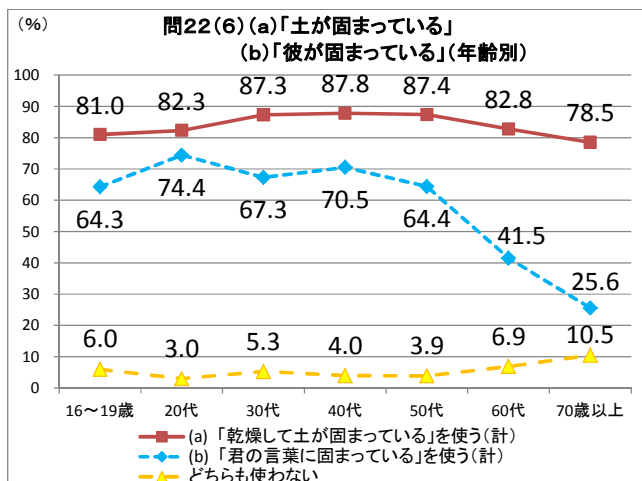
「(b)癒やし系」を使う(計)は、40代以下で8割台となり、「(a)理科系」を使う(計)を15～31ポイント上回っている。



(5)(a)しゃべりまくった／(b)慌てまくった

年齢別に見ると、「(a)しゃべりまくった」を使う(計)は、70歳以上で60代以下より低く69.2%となっているが、比較的新しい使い方とされる「(b)慌てまくった」を使う(計)(23.1%)も最も低く、その差は46ポイントと最も大きくなっている。

「(b)慌てまくった」を使う(計)は、50代以下で60代以上より高く4割強から5割強となっている。



(6)(a)土が固まっている／(b)彼が固まっている

年齢別に見ると、「(a)土が固まっている」を使う(計)は、全ての年代で、比較的新しい使い方とされる「(b)彼が固まっている」を使う(計)を上回っている。

「(b)彼が固まっている」を使う(計)は、60代以上で50代以下より低く「(a)土が固まっている」を使う(計)を41～53ポイント下回っている。

どちらを主に使うか（日常の用語）＜問 23＞（P. 114）

—全ての言い方で、和語・漢語を「主に使う」が減少—

（数字は%，上段…平成27年度調査結果、下段…【平成11年度調査結果】）

〔全体・過去の調査との比較〕

表に挙げた六つの和語・漢語を用いた言い方と、同じ意味で使われるカタカナを用いた言い方を対比して挙げ、どちらの言葉を主に使うかを尋ねた。

六つの言葉のうち、和語・漢語を用いた言い方を「主に使う」は、「(6)合計で(1万円)」が 65.3%と最も高く、次いで、「(3)台所」(55.4%)となっている。

カタカナを用いた言い方を「主に使う」は、「(1)ワイン」が 82.5%と最も高く、次いで「(2)スーツ」(68.2%)となっている。

過去の調査結果(平成 11 年度)と比較すると、「(5)(賞品を)ゲットする」が 24 ポイント、「(2)スーツ」が 16 ポイント、

「(3)キッチン」が 13 ポイント、「(1)ワイン」が7ポイント、それぞれ増加している。

どちらを主に使うか（文化・スポーツの用語）＜問 24＞（P. 119）

—「リベンジ」を主に使う(61.4%)が、「雪辱」を主に使う(21.4%)を、40 ポイント上回っている —

（数字は%）

	(a)を主に使う	(b)を主に使う	どちらも同じくらい使う	どちらも使わない	分からない
(1)(a) 芸能 (b) エンターテインメント	80.0	7.9	7.5	4.3	0.3
(2)(a) 脚本 (b) シナリオ	54.5	22.3	18.7	4.3	0.2
(3)(a) 芸術家 (b) アーティスト	45.3	30.9	21.5	2.1	0.1
(4)(a) 競技場 (b) スタジアム	37.0	36.3	25.0	1.7	0.1
(5)(a) 雪辱 (b) リベンジ	21.4	61.4	11.6	5.0	0.6
(6)(a) 運動選手 (b) アスリート	33.3	46.0	18.6	1.8	0.3

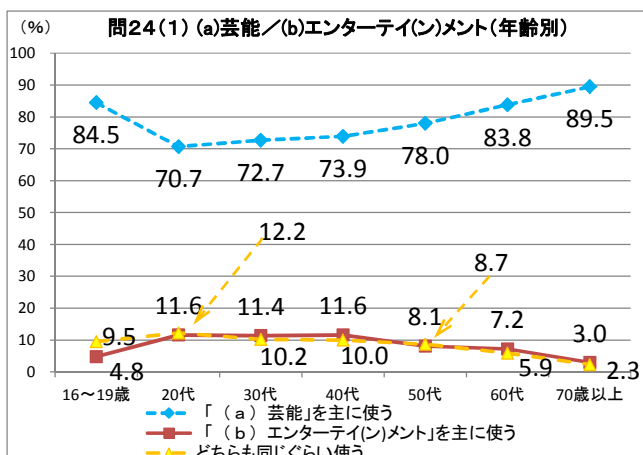
〔全体〕

六つの漢字を用いた言い方と、同じような意味で使われるカタカナを用いた言い方を対比して挙げ、どちらの言葉を主に使うかを尋ねた。

六つの言葉のうち漢字を用いた言い方を「主に使う」は、「芸能」が 80.0%と最も高く、次いで、「脚本」(54.5%)、「芸術家」(45.3%)となっている。

カタカナを用いた言い方を「主に使う」は、「リベンジ」(61.4%)、「アスリート」(46.0%)となっている。

また、「競技場」(37.0%)と「スタジアム」(36.3%)は余り差が見られない。

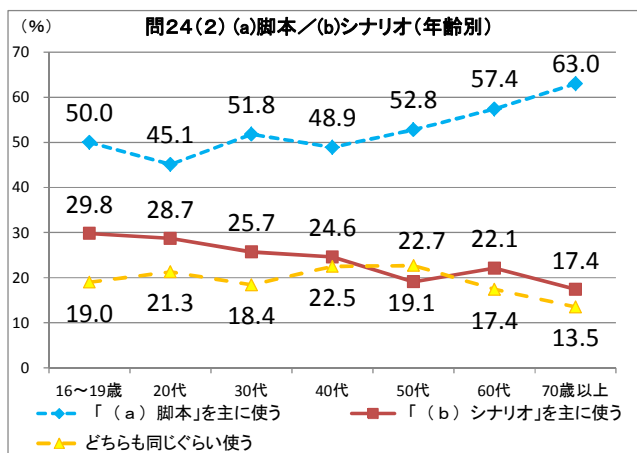


〔年齢別〕

(1)(a)芸能／(b)エンターテインメント

年齢別に見ると、「(a)芸能」を主に使う割合は、全ての年代で「(b)エンターテインメント」を主に使う割合を上回っているが、16～19歳と60代以上で他の年代より高く8割台となっている。

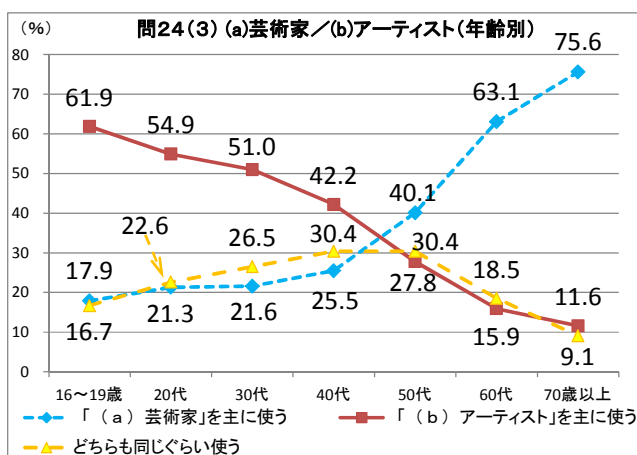
「(b)エンターテインメント」を主に使う割合及び「どちらもおなじくらい使う」は20～40代でそれぞれ1割強となっている。



(2)(a)脚本／(b)シナリオ

年齢別に見ると、「(a)脚本」を主に使う割合は、全ての年代で「(b)シナリオ」を主に使う割合を上回っているが、70歳以上で他の年代より高く63.0%となっている。

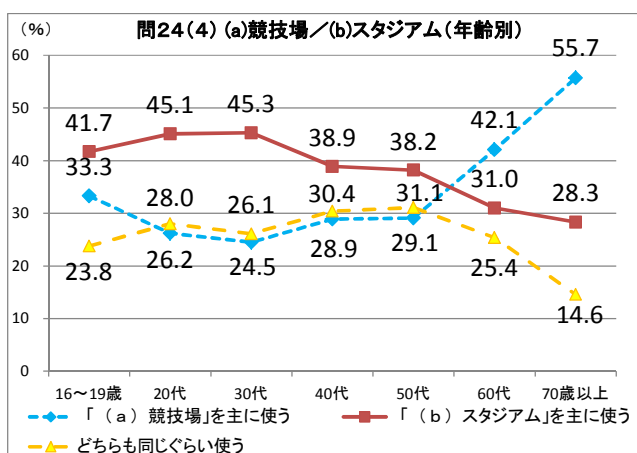
「(b)シナリオ」を主に使う割合は、20代以下で他の年代より高く3割弱となっている。



(3)(a)芸術家／(b)アーティスト

年齢別に見ると、「(a)芸術家」を主に使う割合は、年代が高いほど高くなる可能性があり、16～19歳で17.9%、70歳以上で75.6%となっている。

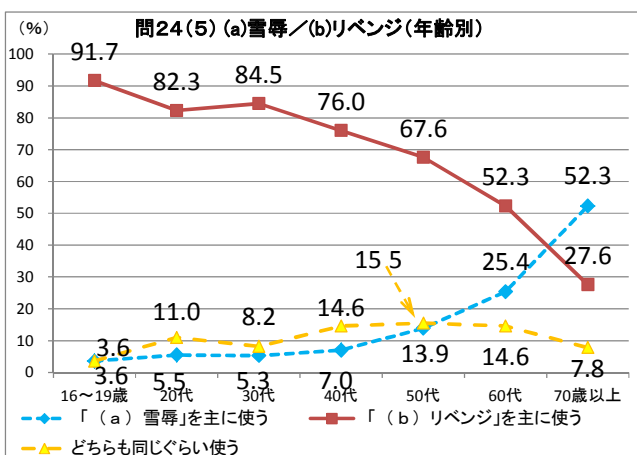
一方、「(b)アーティスト」を主に使う割合は、70歳以上(11.6%)から年代が下がるに従って高くなり、40代以下で「(a)芸術家」を主に使う割合を上回り、16～19歳で61.9%となっている。



(4)(a)競技場／(b)スタジアム

年齢別に見ると、「(a)競技場」を主に使う割合は、60代以上で他の年代より高く4割強から5割台半ばとなっている。

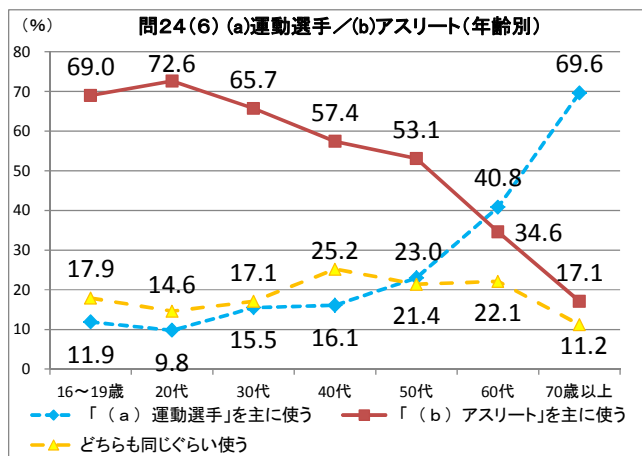
「(b)スタジアム」を主に使う割合は、年代が上がるに従って低くなる傾向があり、60代以上で「(a)競技場」を主に使う割合を11～27ポイント下回っている。「どちらも同じくらい使う」は、40～50代で他の年代より高く3割強となっている。



(5)(a)雪辱／(b)リベンジ

年齢別に見ると、「(a)雪辱」を主に使う割合は、年代が高いほど高くなる傾向があり、70歳以上で「(b)リベンジ」を主に使う割合を上回り、52.3%となっている。

「(b)リベンジ」を主に使う割合は、年代が低いほど高くなる傾向があり、16～19歳(91.7%)で最も高くなっている。



(6)(a)運動選手／(b)アスリート

年齢別に見ると、「(a)運動選手」を主に使う割合は、年代が高いほど高くなる傾向があり、60代以上で、「(b)アスリート」を主に使う割合を6～53ポイント上回っている。

「(b)アスリート」を主に使う割合は、年代が低いほど高くなる傾向があり、50代以下で5割を超え、「(a)運動選手」を主に使うを30～63ポイント上回っている。

6 慣用句等の意味・言い方

どちらの意味だと思うか<問 25> (P. 124)

—「確信犯」は、約7割が本来とは違うとされる意味を回答—

(数字は%)

(1) 奇特(例文:彼は奇人な人だ。)		平成27年度	14年度
(ア): 優れて他と違って感心なこと		49.9	49.9
(イ): 奇妙で珍しいこと		29.7	25.2
(ウ): (ア)と(イ)の両方		5.0	4.1
(エ): (ア)や(イ)とは全く別の意味		4.8	4.1
分からない		10.6	16.7
(2) 確信犯(例文:そんなことをするなんて確認だ。)			14年度
(ア): 政治的・宗教的等の信念に基づいて正しいと信じてなされる行為・犯罪又はその行為を行う人		17.0	16.4
(イ): 悪いことであると分かっているからなされる行為・犯罪又はその行為を行う人		69.4	57.6
(ウ): (ア)と(イ)の両方		5.1	3.9
(エ): (ア)や(イ)とは全く別の意味		2.7	3.3
分からない		5.7	18.8
(3) 琴線に触れる			19年度
(ア): 怒りを買ってしまうこと		31.2	35.6
(イ): 感動や共鳴を与えること		38.8	37.8
(ウ): (ア)と(イ)の両方		3.4	1.4
(エ): (ア)や(イ)とは全く別の意味		4.8	0.6
分からない		21.8	24.6
(4) 名前負け			
(ア): 名前を聞いただけで気後れしてしまうこと		9.3	
(イ): 名前が立派で、中身が追いつかないこと		83.4	
(ウ): (ア)と(イ)の両方		3.5	
(エ): (ア)や(イ)とは全く別の意味		1.7	
分からない		2.1	

〔全体・過去の調査との比較〕

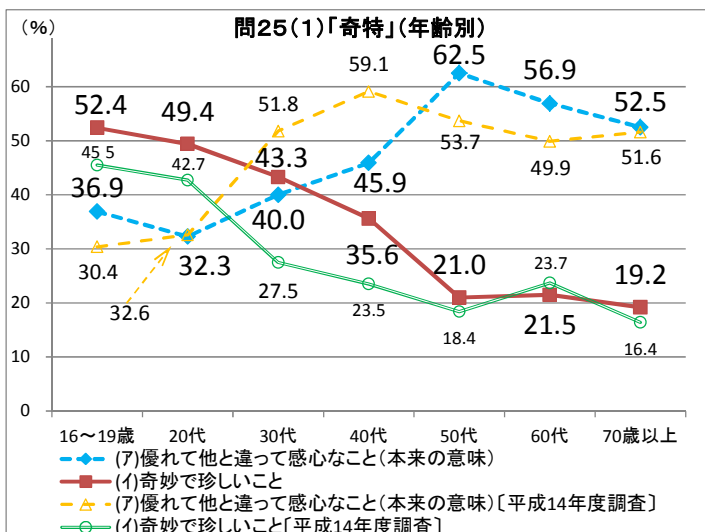
表に挙げた四つの慣用句について、どちらの意味だと思うか尋ねた。なお、辞書等で主に本来の意味とされるものをゴシック体で記した。

今回尋ねた慣用句のうち、「(2) 確信犯」は、本来とは違うとされる方が多く選択されるという結果となっている。

過去の調査結果((1),(2)は平成 14 年度, (3)は平成 19 年度)と比較すると、本来の意味ではない方を選択した割合が、「(1) 奇特」では5ポイント、「(2) 確信犯」では12ポイント、それぞれ増加している。一方、「(3) 琴線に触れる」では4ポイント減少している。

〔年齢別・過去の調査との比較〕

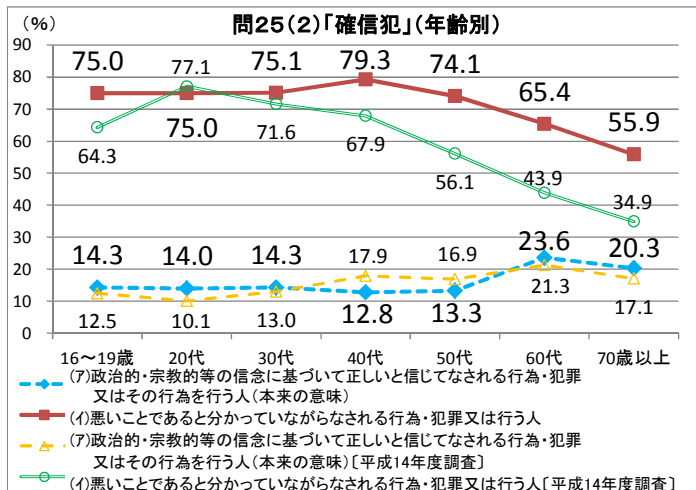
※本来の意味とされるものは点線（- - -）で表示した。



(1) 奇特

年齢別に見ると、本来の意味とされる「優れて他と違って感心なこと」は、40代以上で「奇妙で珍しいこと」を上回り、特に50代で最も高く62.5%となっている。

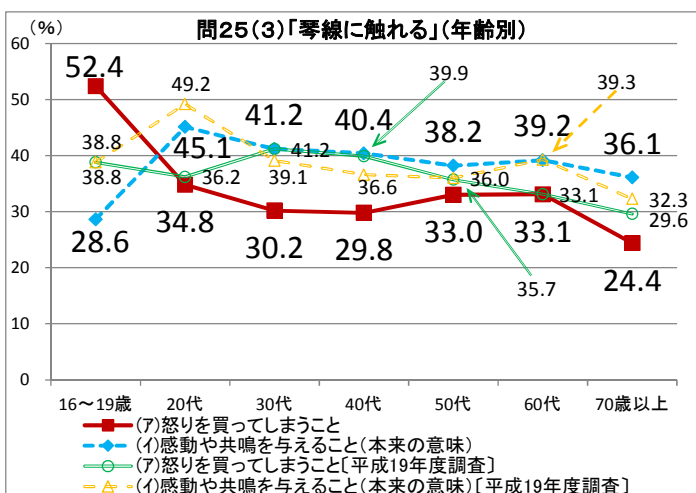
過去の調査結果(平成14年度)と比較すると、平成14年度調査では、「優れて他と違って感心なこと」は、30代以上で「奇妙で珍しいこと」を上回っていたが、今回調査では、「優れて他と違って感心なこと」は、40代以上で「奇妙で珍しいこと」を上回っている。



(2) 確信犯

年齢別に見ると、本来の意味とされる「政治的・宗教的等の信念に基づいて正しいと信じてなされる行為・犯罪又はその行為を行う人」は、60代以上で他の年代より高く2割台前半となっている。

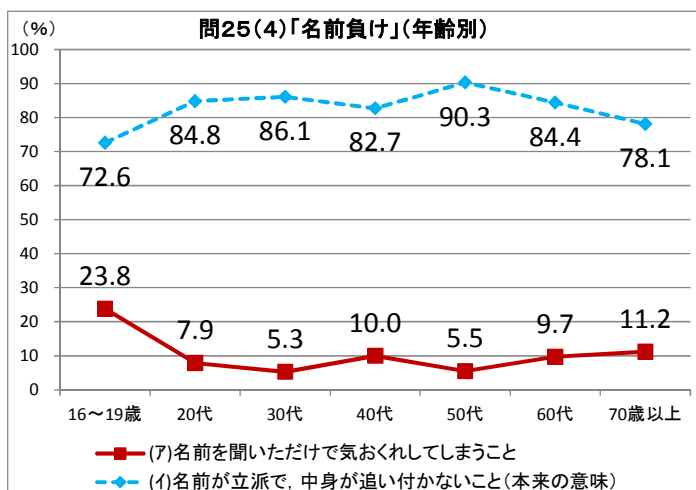
過去の調査結果(平成14年度)と比較すると、「悪いことであると分かっているが知らなされる行為・犯罪又はその行為を行う人」は、20代を除く全ての年代で2～22ポイント増加している。



(3) 琴線に触れる

年齢別に見ると、本来の意味とされる「感動や共鳴を与えること」は、16～19歳を除く全ての年代で、「怒りを買ってしまうこと」を上回っている。

過去の調査結果(平成19年度)と比較すると、16～19歳で「感動や共鳴を与えること」は10ポイント減少し、「怒りを買ってしまうこと」は14ポイント増加している。



(4) 名前負け

年齢別に見ると、本来の意味とされる「名前が立派で、中身が追い付かないこと」は、50代で他の年代より高く90.3%となっている。「名前を聞いただけで気おくれしてしまうこと」は、16～19歳で他の年代より高く23.8%となっている。

どちらの言い方を使うか＜問 26＞（P. 130）

—本来の言い方とされる「あいきょうを振りまく」を使う(49.1%)は、平成 17 年度調査から5ポイント増—

（数字は%）

〔全体・過去の調査との比較〕

(1)「周囲のみんなに、明るくにこやかな態度をとること」を 平成27年度 17年度		
(ア):「(a)あいそ(う)を振りまく」を使う	42.7	48.3
(イ):「(b)あいきょうを振りまく」を使う	49.1	43.9
(ウ): (a)と(b)の両方とも使う	5.5	5.5
(エ): (a)と(b)のどちらも使わない	2.6	—
分からない	0.2	2.3
(2)「そんなに思いどおりになるものではないこと」を 18年度		
(ア):「(a)そうは問屋が許さない」を使う	23.6	23.5
(イ):「(b)そうは問屋が卸さない」を使う	70.4	67.7
(ウ): (a)と(b)の両方とも使う	1.4	1.9
(エ): (a)と(b)のどちらも使わない	3.5	4.4
分からない	1.0	2.6
(3)「混乱したさま」を 18年度		
(ア):「(a)上や下への大騒ぎ」を使う	60.8	58.8
(イ):「(b)上を下への大騒ぎ」を使う	22.5	21.3
(ウ): (a)と(b)の両方とも使う	1.5	2.5
(エ): (a)と(b)のどちらも使わない	12.7	12.9
分からない	2.5	4.5
(4)「眠りから覚めたときの気分が悪いこと」を		
(ア):「(a)寝覚めが悪い」を使う	37.1	
(イ):「(b)目覚めが悪い」を使う	57.9	
(ウ): (a)と(b)の両方とも使う	3.0	
(エ): (a)と(b)のどちらも使わない	1.6	
分からない	0.4	

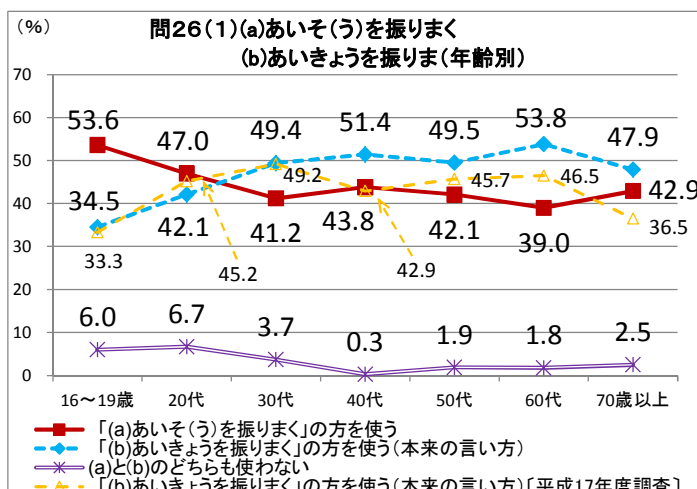
表に挙げた四つの慣用句等について、どちらの言い方を使うかを尋ねた。なお、辞書等で主に**本来の言い方とされているものをゴシック体**で記した。

今回尋ねた四つの慣用句等のうち、本来の言い方とされる(3)「(b)上を下への大騒ぎ」、(4)「(a)寝覚めが悪い」を使う割合は、それぞれ、本来の言い方とされていない(3)「(a)上や下への大騒ぎ」、(4)「(b)目覚めが悪い」を大きく下回っている。

過去の調査結果((1)は平成 17 年度、(2)、(3)は平成 18 年度)と比較すると、本来の言い方とされている方を選択している割合が、それぞれ(1)「(b)あいきょうを振りまく」では5ポイント、(2)「(b)そうは問屋が卸さない」では3ポイント、(3)「(b)上を下への大騒ぎ」では1ポイント増加している。

〔年齢別・過去の調査との比較〕

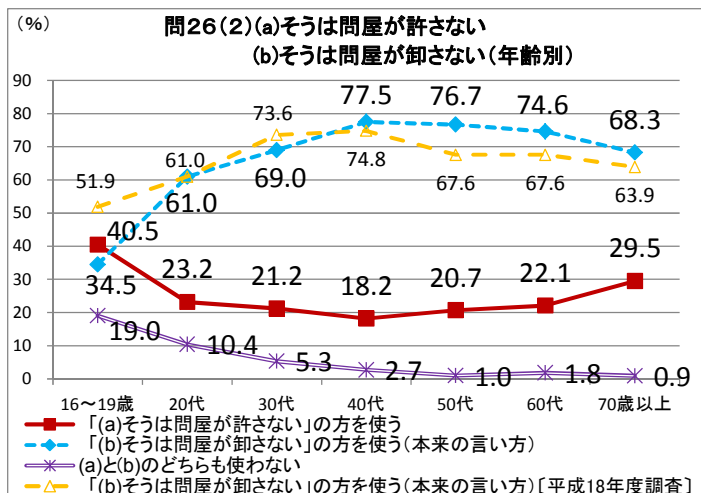
※本来の言い方とされるものは点線（- - -）で表示した。



(1) あいそ(う)を振りまく／あいきょうを振りまく

年齢別に見ると、本来の言い方とされる「(b)あいきょうを振りま」は、30代以上で「(a)あいそ(う)を振りま」を上回っており、60代で最も高く53.8%となっている。「(a)あいそ(う)を振りま」は、16～19歳(53.6%)で最も高く、「(b)あいきょうを振りま」(34.5%)を19ポイント上回っている。

過去の調査結果(平成 17 年度調査)と比較すると、「(b)あいきょうを振りま」は、20代を除く全ての年代で増加している。

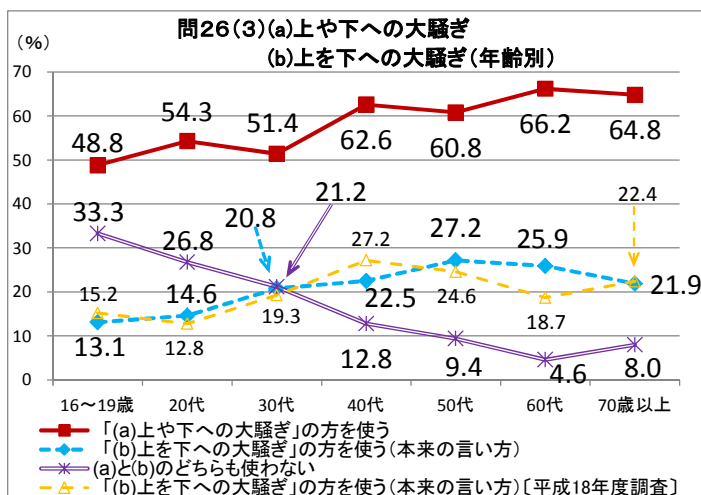


9ポイント増加しているが、16～19歳では17ポイント減少している。

(2) そうは問屋が許さない／そうは問屋が卸さない

年齢別に見ると、本来の言い方とされる「(b)そうは問屋が卸さない」は、20代以上で6～7割台となっているが、16～19歳で34.5%となっている。「(a)そうは問屋が許さない」は、16～19歳で40.5%となり、本来の言い方である「(b)そうは問屋が卸さない」を6ポイント上回っている。「(a)と(b)のどちらも使わない」は年代が低いほど高くなる傾向があり、16～19歳で最も高く、19.0%となっている。

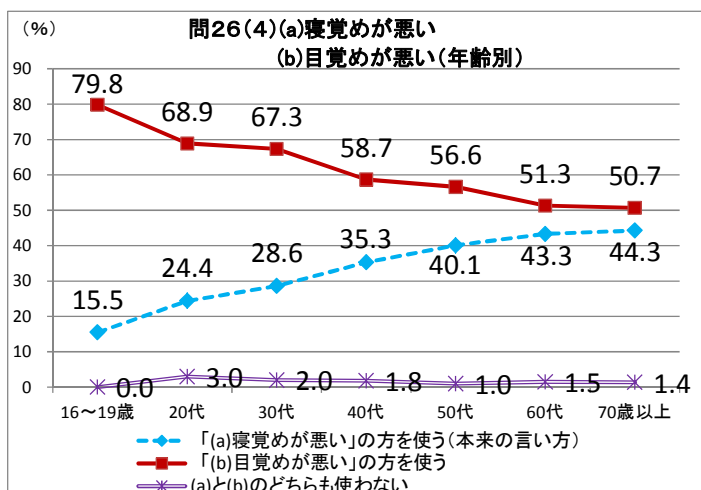
過去の調査結果(平成18年度)と比較すると、「(b)そうは問屋が卸さない」は40代以上では3～



(3) 上や下への大騒ぎ／上を下への大騒ぎ

年齢別に見ると、本来の言い方とされる「(b)上を下への大騒ぎ」は、全ての年代で「(a)上や下への大騒ぎ」を下回っており、20代以下で他の年代より低く1割台前半となっている。「(a)と(b)のどちらも使わない」は、年代が低いほど高くなる傾向があり、20～30代で2割台、16～19歳で最も高く33.3%となっている。

過去の調査結果(平成18年度)と比較すると、余り変化は見られない。



(4) 寝覚めが悪い／目覚めが悪い

年齢別に見ると、本来の言い方とされる「(a)寝覚めが悪い」は、年代が高いほど高くなる傾向があり、50代以上で4割台となっている。一方、「(b)目覚めが悪い」は、年代が低いほど高くなる傾向があり、20～30代で6割台後半、16～19歳で最も高く79.8%となっている。